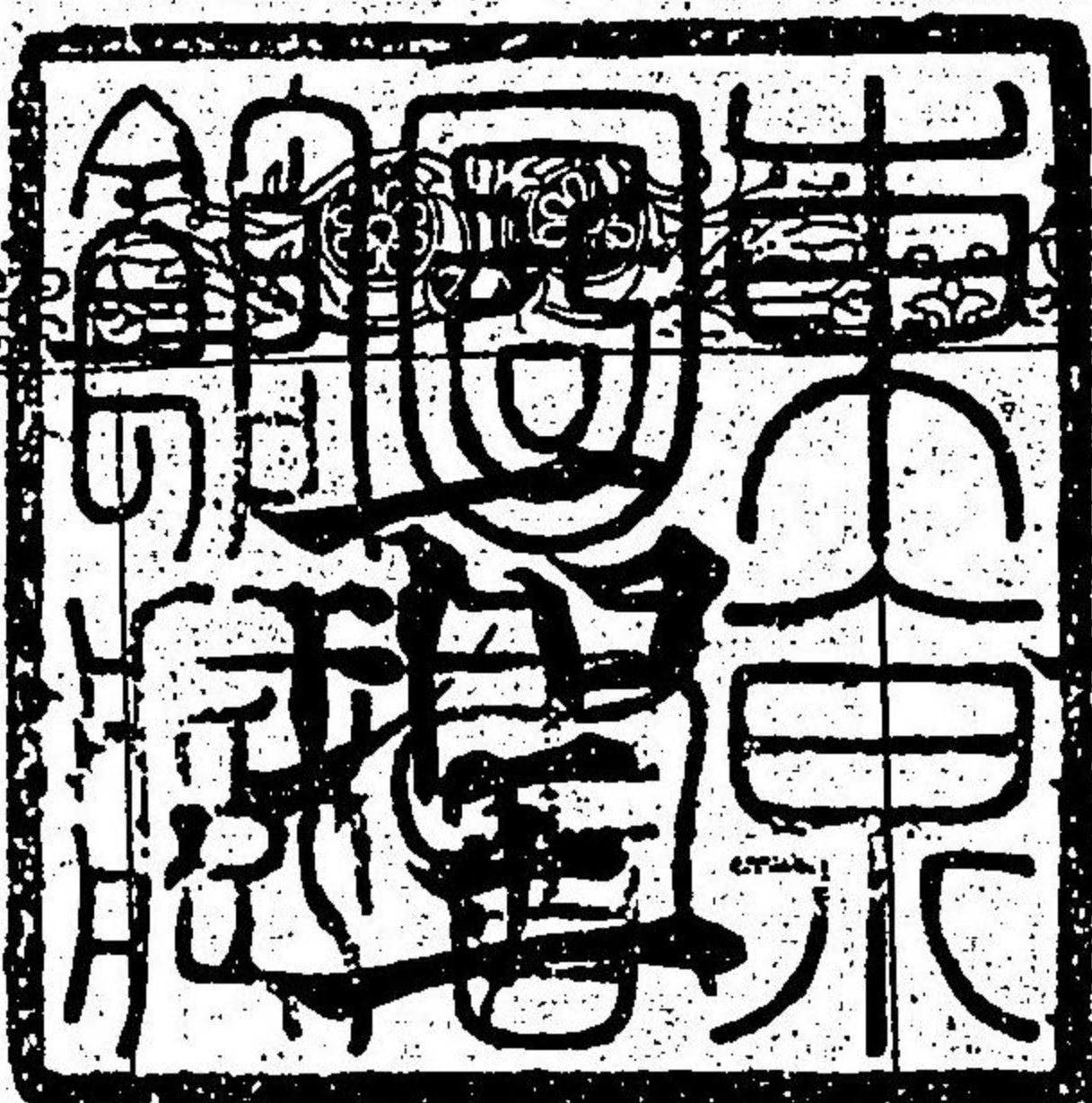


明治二十年二月七日寄贈 2506

上田瑪特斐譯



規則書 上

明治十六年三月

正教會



例言

此書原本ハ一千八百六十二年魯國正教會聖務會院ノ刊行ニ係リ規則書ト題スル書ニシテ即チ古時ノ聖大公會ニテ定メタル信經定理ヲ始メ聖使徒規則聖全地公會規則聖地方公會規則并ニ諸聖父規則等ヲ合輯シタルモノナリコノ規則書ハ實ニ我が正教會聖傳ノ首要ナルモノニシテ教會法ノ基礎本原タリ爰ニ余此書中ヨリ聖使徒規則及ヒ七大全地公會規則ヲ譯出シテ逐号之ヲ正教新報ニ掲載セシガ願フニ余ノ不學ナル譯字允當ナラズシテ原意ニ徹セザル所アルノ憾無キ能ハザリシガ今ヤ親ク主教尼适賴師ノ校



閱ヲ乞ヒ勉メテ誤謬ヲ正シタレハ譯ノ拙劣ヲ顧ミズ刊行  
シテ我邦兄弟ノ便ニ供スト云爾

明治十六年三月

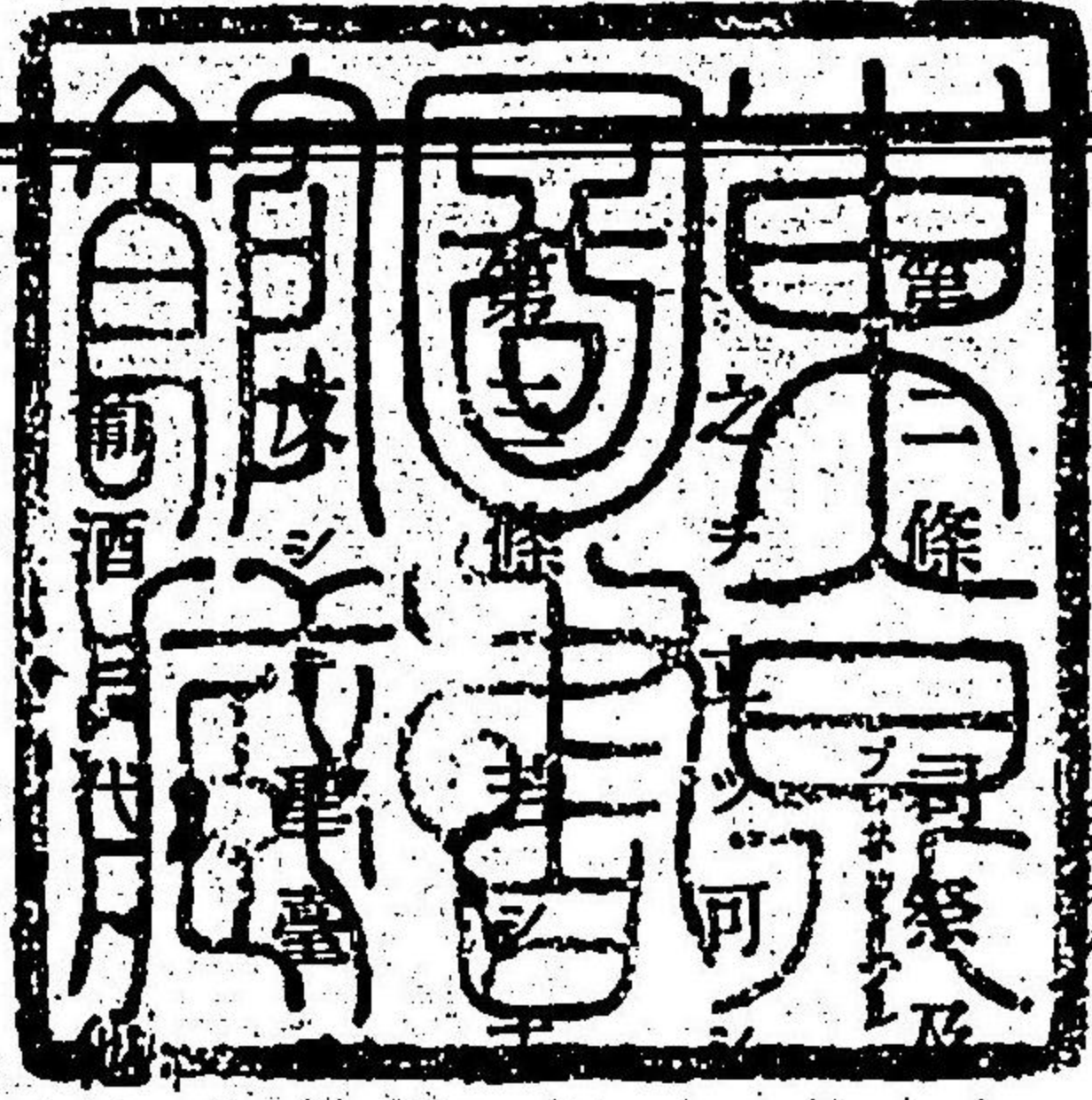
譯者識

# 聖使徒規則



聖使徒規則

第一條 主教ハ二人若クハ三人ノ主教之ヲ立ツ可シ



教或ハ司祭献物ノトニ關スル主ノ規定ニ  
他ノ或物品即チ或ハ蜂蜜或ハ乳汁或ハ葡  
品ヨリ製シタル飲料或ハ禽鳥或ハ獸畜或  
ハ野菜等ヲ献シ又定期ニ於テ初穂或ハ葡萄ヲ献スルノ  
外規定ニ反シテ献ズルアラバ聖位ヲ除黜セラレ可シ聖  
臺ニハ聖、奉献ノ時燈燭ニ用ユルノ橄欖油及ヒ乳香ノ外  
セイタイキミツ

聖使徒規則



他物ヲ献ス可ラス  
 第四條 其他凡ソ諸果實ノ新物ハ主教及ヒ司祭ノ宅ニ贈ル可シ聖臺ニ献ス可ラス但シ主教及ヒ司祭ハ輔祭及ヒ他ノ供職者ト之ヲ分ツ可キナリ  
 第五條 主教或ハ司祭或ハ輔祭ハ虔敬ヲ辞トシテ己ノ妻ヲ逐フ可ラス若シ逐フ時ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ又執拗シテ聽カザル時ハ聖位ヲ除黜セラル可シ  
 註 凡ソ神品者ニ妻ヲ逐フヲ禁ゼラルハ、ハヅナルノ講明スルガ如ク夫婦ノ關係ヲ輕忽ニスルノ恐レアルニ由テナリ然レモ主教ノ妻ヲ娶ラザルヲ古傳ナ

リ第六全地公會ハ僅ニアフリカノ或教會ニ於テ此傳ニ違反スルヲ認メ直ニ該會第十二條規則ヲ以テ之ヲ禁ゼリ  
 第六條 主教或ハ司祭或ハ輔祭ハ世俗ノ業務ヲ擔承ス可ラス然ラザレバ聖位ヲ除黜セラル可シ  
 第七條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭春分ノ前ニイウデヤ人ト共ニ「パスハ」聖日ヲ祭ル時ハ聖位ヲ除黜セラル可シ  
 第八條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡ソ聖名簿中ノ者奉獻ヲ行フ時領聖セザル時ハ其理由ヲ申ス可シ若シ正當ノコトナレバ赦宥セラル可シ若シ申セザレバ教會ノ



親與ヲ絶タル可シ蓋シ人民ニ惡害ノ源因ト爲リ奉獻ヲ行ヘン者ニ其不正ニシテ行ヘタリトノ疑惑ヲ起セシニ由テナリ

第九條 凡ソ聖堂ニ入リテ聖書ヲ聽聞スルノ信者若シ祈禱及ヒ聖セイダイレイキ領聖ニ終リニ至ルマデ在ラザレバ聖堂ニ不順ヲ生ズル者トシテ教會ノ親與ヲ絶ツ可キナリ

第十條 若シ教會ノ親與ヲ絶タル者ト祈禱スル者ハ假令私家ニ於テセシト雖モ親與ヲ絶タル可シ

第十一條 若シ教衆タル者教衆ヲ除黜セラレタル者ト祈禱スル時ハ自分モ除黜セラレ可シ

第十二條 若シ教衆ノ者或ハ俗人教會ノ親與ヲ絶タル或ハ教衆トナルニ堪ヘザル者去リテ他府ニ往キ保任狀ナクシテ受ケラル、時ハ受タル者モ受ラレタル者モ親與ヲ絶タル可シ

第十三條 若シ既ニ親與ヲ絶タレシ者ナラバ詐リテ神ノ教會ヲ欺瞞スル者ナルニ由リ其絶交ヲ連續セラレ可シ

第十四條 主教ハ假令多人ニ請ハル、ト雖モ己ノ主教部エポルヒヤヲ棄テ、他ニ移轉スルヲ許サズ唯敬虔ノ言ヲ以テ彼處ニ居住スル者ニ鴻益ヲ與フルヲ得可キ者ニシテ之ヲ行フ可キ正當ノ理由アル時ハ此限ニ非ス但シ自己ノ任意



ニ由ラズシテ數多ノ主教ノ裁判ニ從ヒ熱切ノ請求ニ由  
 テ之ヲ行フ可キナリ

第十五條 若シ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ教衆ノ名簿中ニ在  
 ル者己ノ主教ノ意ニ由ラズシテ己ノ境區ヲ去リテ他ニ  
 移リ至ク他所ニ轉住スル者ニハ以後勤役ス可ラザルヲ  
 命ス殊ニ己ノ主教ノ歸還ス可キノ招キヲ聽カザル者ハ  
 勤役ス可ラズ若シ此不順ヲ改メザレバ彼處ニ於テ俗人  
 トシテ交際セラル可シ

第十六條 若シ主教此ノ如キ者有ランニ既ニ裁決セラレ  
 タル勤役ノ禁ヲ願ミテ教衆ノ員トシテ之ヲ受ル時ハ不

順ノ師トシテ親與チ絶タル可シ

第十七條 領洗ノ後再婚ヲ爲シ若クハ妾ヲ置キタル者ハ  
 主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ聖位ノ名簿ニ記セラル  
 ヲ者ト爲ルヲ得ズ

第十八條 寡婦若クハ離去セラレタル婦若クハ淫婦若ク  
 ハ婢若クハ女俳優ヲ娶リタル者ハ主教或ハ司祭或ハ輔  
 祭或ハ凡テ聖位ノ名簿ニ記セラル、者ト爲ルヲ得ズ

第十九條 姉妹二人若クハ姪女ヲ娶リタル者ハ教衆ノ者  
 ト爲ルヲ得ズ

此使徒規則ハ未ダ異教人タル時此ノ如キ婚姻ヲ爲シ



領洗ノ後モ尙ホ此ノ不法ノ同室ヲ爲セシ者ノ爲ニ立  
 テレタリ然レモ領洗後此ノ如キ夫婦ノ同室ヲ爲サド  
 リシ者ハアレキサンドリヤノ聖フェオフィルノ規則第五  
 條ニ依ルニ教衆ニ加ヘラル、ヲ得可シ何トナレバ異  
 教中ノ罪ハ洗禮ニテ潔メラレタレバナリ

第二十條 若シ教衆ノ者人ノ爲ニ保證人ト爲ル時ハ除黜  
 セラル可シ

第二十一條 他人ノ強迫ニ由リテ鬪割セラレタル鬪者若  
 クハ窘逐ノ時陰莖ヲ截斷セラレタル者若クハ生レナガ  
 ラ鬪ナル者若シ其職ニ堪フル時ハ主教ト爲ルヲ得可シ

第二十二條 自ラ鬪割セシ者ハ教衆ニ加フ可ラス蓋シ自  
 殺人ニシテ神ノ造物ノ敵ナリ

第二十三條 若シ教衆ノ者自ラ鬪割スレバ除黜セララル可  
 シ蓋シ自ラ己ノ兇行人ナリ

第二十四條 自ラ鬪割セシ俗人ハ三年間機密ヲ領スルヲ  
 得ザル可シ蓋シ自ラ己ノ生命ノ謀害者ナリ

第二十五條 主教或ハ司祭或ハ輔祭ニシテ淫行若クハ背  
 誓若クハ偷盜ニ罪セラレタル者ハ聖位ヲ除黜セララル可  
 シ然レモ教會ノ親與ハ絶タル可ラス蓋シ書ニ曰ク一罪  
 ノ爲ニ二罰ヲ科ス可ラス（<sup>ナツム</sup>章九節一）ト其他ノ供職者モ亦然



第二十六條 婚配ヲ行ハズシテ教衆ニ加ハリタル者婚配  
ヲ爲サント欲スル者ハ唯誦經者ト唱歌者ノミ之ヲ行フ  
ヲ命ス

第二十七條 主教或ハ司祭或ハ輔祭犯罪セシ信者若クハ  
凌辱セシ不信者ヲ打擲シテ之ヲ威嚇セシト欲スル者ハ  
聖位ヲ除黜ス可キヲ命ズ蓋シ主ハ毫モ我等ニヨノヲ  
教誨セス之ニ反シテ自ラ打レテ人ヲ打タス訴ラレテ訴  
ヲ反カス苦ヲ受ケテ厲言ヲ出サズ(彼得前書二  
章二十三節)

第二十八條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭顯然ナル罪ノ爲

ニ義ニ依テ除黜セラレタル者曾テ其任セラレタルノ職  
務ニ干涉セントスレバ全ク教會ヨリ斷絶セラル可シ

第二十九條 主教或ハ司祭或ハ輔祭金銀ヲ以テ其位ヲ得  
タル者ハ其者并ニ之ヲ立タル者モ除黜セラレ且全ク親  
與ヲ絶タル可シ猶ホ巫祝シモンハ我レペートルニテ絶  
ダレタル如シ

或抄本ニハ巫祝シモンハペートルニテ云々トアリ

第三十條 世俗ノ官長ニ依テ教會ニ主教ノ權ヲ得タル主  
教ハ除黜セラレ且親與ヲ絶タル可シ凡ソ之ト交通スル  
者モ亦然リ



第三十一條 若シ司祭裁判ヲ以テ主教ヲ虔敬及ヒ正義ニ  
 反スルコトニ罪スルコトナク己ノ主教ヲ輕蔑シテ別ニ集會  
 ナ爲シ別ノ聖臺ヲ建ル時ハ權威ヲ好ム者トシテ除黜セ  
 ラル可シ蓋シコレ權ヲ僭竊スル者ナリ他ノ之ニ從ヘタ  
 ル教衆モ亦同ク除黜セラル可シ俗人ハ教會ノ親與ヲ絶  
 タル可シ但シ主教ヨリ一二三回説諭ヲ爲シタル後ニ之  
 ヲ行フ可キナリ

第三十二條 司祭或ハ輔祭ニシテ主教ヨリ親與ヲ絶タル  
 タル者ハ其親與ヲ絶チシ者ノ外他ノ主教ニテ親與ニ受  
 ケラル可ラス然レモ其親與ヲ絶チシ者死スレバ此限ニ

非ズ

第三十三條 凡ソ他ノ主教或ハ司祭或ハ輔祭ニシテ保任  
 狀ヲ有セザル者ハ之ヲ受ク可ラス而シテ保任狀ヲ示セ  
 バ宜ク之ヲ審議スベシ若シ虔敬ノ傳道者ナラバ受ク可  
 シ然ラザレバ之ニ其需要ノ物ヲ給與シテ之ヲ親與ニ受  
 ク可ラス蓋シ欺騙ヲ爲ス者多シ

第三十四條 凡ソ民ノ主教ハ其中ノ第一ナル者ヲ知リ之  
 ナ首ト認ム可シ而シテ己ノ權ニ超過スルコトハ何事モ其  
 評議ニ由ラズシテ行フ可ラス各自唯其主教部ト之ニ從  
 屬スルノ地トニ關係スルコトヲ行フ可シ然レモ第一ノ者



モ諸主教ノ評議ニ由ラズシテ何事モ行フ可ラズ蓋シ此ノ如クニシテ同心一意ヲ爲シ而シテ神ハ主ヲ以テ聖神ニ於テ父及ヒ子及ヒ聖神ハ讚榮セラレントス

第三十五條 主教ハ漫リニ己ノ主教部ノ境區外ニ關シ之ニ從屬セザルノ都府邑村ニ於テ手撫ヲ行フ可ラズ若シ其都府若クハ邑村ヲ管屬スル者ノ承諾ナクシテ行ヘシテ罪セラル、時ハ其者并ニソレニ立ラレタル者モ除黜セラル可シ

第三十六條 若シ手撫ヲ以テ主教ニ立ラレタル者其職務ヲ受ケズシテ其委任セラレタル民ノ下ニ掛慮セザレバ

其職務ヲ受ルニ至ルマデ親與ヲ絶タル可シ司祭及ヒ輔祭モ亦然リ若シ彼處ニ往テ自己ノ意ニ由ラズ民ノ惡意ニ由テ受ケラレザレバ彼レハ依然主教タル可シ而シテ其都府ノ教衆ハ此ノ如キ不順ノ民ヲ教誨セザルニ由リテ親與ヲ絶タル可シ

第三十七條 一年ニ二次諸主教公會ヲ爲シテ互ニ虔敬ノ定理ノ下ニ議シ教會ニ起リタル爭論ヲ決定ス可シ第一回ハ五旬間「パスハ」祭ヨリ五旬節即チ聖神降臨ノ第四ノ週間ニ於テシ第二回ハ十月ノ十二日ニ於テス可シ其後特別ノ故ニ由リテ公會ノ爲メニ別ノ時ヲ定メラ



レタリ第一全地公會ノ規則第五條及ヒ第六全地公會ノ規則第八條ヲ看ル可シ

第三十八條 主教ハ神ノ管照ノ下ニ在リテ教會ノ諸物品ヲ慮リ之ヲ管理ス可シ然レモ主教ハ其一物モ己ノ私有ト爲シ若クハ神ニ屬スル者ヲ以テ己ノ親族ニ與フルヲ許サズ若シ其中貧者アラバ貧者トシテ之ニ施與ス可シ但シ之ヲ辭トシテ教會ニ屬スル者ヲ販賣ス可ラズ

第三十九條 司祭及ヒ輔祭ハ主教ノ意ニ由ラズシテ何事モ行フ可ラズ蓋シ主ノ人々ハ彼レニ委任セラレ彼レハ其靈魂ノ爲ニ陳訴セントス

第四十條 主教ノ私有ノ財産(若シ主教私有物ヲ有スレバ)ヲ明ニシ又主ノ物ヲ明ニシ以テ主教死スル時私有物ヲ己ノ欲スル者ニ己ノ欲スル如ク遺スノ權利ヲ有スルヲ致スベク又教會ノ名稱ヲ以テ時トシテ妻子若クハ親族若クハ僕婢アル主教ノ財産ヲ耗費セザルヲ致スベシ蓋シコレ神ト人前ニ義ナルコトナリ則チ教會モ主教ノ財産ノ知レザルニ由テ損耗ヲ爲サズ又主教若クハ其親族モ教會ノ爲ニ財産ヲ失ハズ或ハ其親近ノ者訴訟ヲ構シ以テ其逝去ヲ辱メザルヲ致ス可シ

第四十一條 主教ニ教會ノ所有物ヲ管理スルノ權ヲ有ス



可キヲ命ス若シ貴重ナル人ノ靈魂ヲ之ニ委托セラレベ  
 シンバ金銀ノ一ハ勿論之ニ命セザル可ラス即チ主教ハ  
 己ノ權ニ由テ諸物ヲ管理シ司祭及ヒ輔祭ヲ以テ要求ス  
 ル者ニハ神ヲ敬畏スルノ心ト全ク虔敬ノ心ヲ以テ施與  
 ス可シ又(若シ要スレバ)自ラ己レ及ヒ行旅スル兄弟等ノ  
 必要ノ需メニ使用シ何事ニ於テモ欠乏ヲ致ザル可シ  
 蓋シ神ノ法ハ聖臺ニ役スル者ハ聖臺ニ由リテ養ハル可  
 キヲ命ゼリ猶ホ軍士が自ラ給養シナガラ干戈ヲ執テ敵  
 ニ向フヲ爲サザルガ如シ

第四十二條 主教或ハ司祭或ハ輔祭、賭博及ビ酒ニ耽リタ

ル者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ除黜セララル可シ

第四十三條 イニシテ副輔祭或ハ誦經者或ハ唱歌者此ノ如キヲ  
 行フ者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ親與ヲ絶タル可シ俗人モ  
 亦然リ

第四十四條 主教或ハ司祭或ハ輔祭、負債者ヨリ利息ヲ促  
 求スル者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ除黜セララル可シ

第四十五條 主教或ハ司祭或ハ輔祭唯異端者ト祈禱セシ  
 者ハ親與ヲ絶タル可シ若シ異端者ニ教會役者ノ如クニ  
 事ヲ行フヲ許ス時ハ除黜セララル可シ

第四十六條 主教或ハ司祭異端者ノ洗禮若クハ其獻物ヲ



受ケシ者ハ除黜ス可キヲ命ス蓋シハリストストウエリア  
 ルト何ノ契カ之レ有ン信者ト不信者ト何ノ干カ之レ有  
 (哥林多後書 第六章十五節)

此使徒規則ハ使徒時代ニ神<sup>カミナ</sup>父及ヒ子及ヒ聖神ノ<sup>カミナ</sup>及  
 ヒ神子ノ人体ヲ藉リタル<sup>カミナ</sup>ノ緊要ナル定理ヲ壞場セ  
 シ異端者ニ關係ス其他別種ノ異端者ノ<sup>カミナ</sup>ニ關係スル  
 後代ノ定規ハ即チ左ノ規則ナリ第一全地公會ノ第十  
 九條ヲオデキヤ公會ノ第七條及ヒ第八條第六全地公  
 會ノ第九十五條及ヒ大ワシリイノ第四十七條  
 第四十七條 主教或ハ司祭、正規ニ由テ領洗セシ者ヲ復タ

ビ施洗シ若クハ不虔者ニ瀆サレタル者ヲ施洗セザル時  
 ハ除黜セラル可シ蓋シ主ノ十字架及ビ其死ヲ凌蔑シ司  
 祭ヲ僞司祭ト分別セザルニ由ル  
 第四十八條 若シ俗人已ノ妻ヲ逐フテ他婦若クハ他人ニ  
 離去セラレタルノ婦ヲ娶ル時ハ親與ヲ絶タル可シ  
 第四十九條 若シ主教或ハ司祭、主ノ規定ニ從ヒ父及ヒ子  
 及ヒ聖神ニ由ラズシテ三ノ無始者若クハ三ノ子若クハ  
 三ノ撫恤者ニ由テ施洗スル時ハ除黜セラル可シ  
 第五十條 若シ主教或ハ司祭、惟一機密ノ三次ノ浸没ヲ行  
 ハズシテ主ノ死ニ由テスル一次ノ浸没ヲ行フ時ハ除黜



セラル可シ蓋シ主ハ我が死ニ由テ施洗セヨト云ハズシ  
テ往テ万民ヲ教ヘ父及ヒ子及ヒ聖神ノ名ニ由テ洗ヲ施  
ス可シ(馬太二章十八節)ト云ヘリ

第五十一條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ聖位ニ  
在ル者節制ノ功ノ爲ニ非ズ乃チ嫌惡ノ故ニ由リ萬物甚  
ク善ナルト神人ヲ造ル時之ガ男女ヲ造リシコトヲ忘レテ  
婚姻ヲ避ケ肉ト酒トヲ絶テ此ノ如クニシテ妄リニ造物  
ヲ毀謗スレバ或ハ悔改ス可シ或ハ聖位ヲ除黜セラレ且  
教會ヨリ逐斥セラル可シ俗人モ亦然リ

第五十二條 若シ主教或ハ司祭罪惡中ヨリ反歸セシ者ヲ

受ケズシテ之ヲ拒絕スル時ハ聖位ヲ除黜セラル可シ蓋  
シ一ノ罪人悔改スルアレバ天ニ於テ喜悅アリ(路加十五  
章七節)  
ト云ヒシハリストスチ愛悲セシムルニ由ル

第五十三條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭祭日ニ於テ節制  
ノ功ノ爲ニ非ズシテ嫌惡シテ肉ト酒トヲ食セザル時ハ  
除黜セラル可シ蓋シ自己ノ良心烙カレテ多人ノ誘惑ノ  
原因ト爲ルニ由ル

第五十四條 若シ教衆ノ者酒家ニ飲食シテ認メラル、時  
ハ親與ヲ絶タル可シ但シ途間己ムコトヲ得ザルニ由テ旅  
舎ニ休憩スルハ此限ニ非ズ



第五十五條 若シ教衆ノ者主教ヲ困辱スル時ハ除黜セラ  
ル可シ蓋シ爾ノ民ノ有司ヲ誹ル勿レ(行實二十  
三章五節)

第五十六條 若シ供職者タル者司祭或ハ輔祭ヲ困辱スル  
時ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ

第五十七條 若シ教衆ノ者跛者若クハ聾者若クハ瞽者若  
クハ足ヲ傷ヒシ者ヲ嘲笑スル時ハ親與ヲ絶タル可シ俗  
人モ亦然リ

第五十八條 主教或ハ司祭ハ供職者及ヒ人民ノ一ヲ掛慮  
セズシテ之ヲ虔敬ニ教導セザル時ハ親與ヲ絶タル可シ  
此ノ汗漫怠惰ニ安ンシテ改メザレバ除黜セララル可シ

第五十九條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭教衆中ノ要求ス  
ル者ニ其要求スル物ヲ給與セザル時ハ親與ヲ絶タル可  
シ執拗シテ悔改セザレバ己ノ兄弟ノ殺害者トシテ除黜  
セララル可シ

第六十條 若シ不虔者ノ偽書ヲ聖書ノ如ク聖堂ニ誦讀シ  
以テ人民及ビ教衆ノ害ヲ爲ス者アラバ除黜セララル可シ  
第六十一條 若シ信者淫行若クハ姦淫若クハ其他禁制セ  
ラレタル事ヨリ告訴セラレテ定罪セラレタル者ハ教  
衆ニ登庸セララル可ラス

第六十二條 若シ教衆ノ者イウデヤ人若クハエリシ人



若クハ異端者ヲ畏レテハリストスノ名ヲ棄レバ教會ヨリ逐斥セララル可シ若シ教會役者ノ名ヲ拒辞スレバ教衆ヨリ除黜セララル可シ若シ悔改スレバ俗人トシテ受ケラル可シ

第六十三條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ聖位ニ在ル者生命タル血アルノ肉若クハ獸ニ傷害セラレタル牲類若クハ死シタル禽獸ノ肉ヲ食スレバ除黜セララル可シ蓋シ律法(行實十五章)ニ之ヲ禁ゼリ若シ俗人之ヲ行ハバ親與ヲ絶タル可シ

第六十四條 若シ教衆ノ者主日若クハ一土曜日(即チ大土)

曜日)ヲ除クノ外土曜日ニ禁食シテ認メラル、時ハ除黜セララル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

主日及ヒ土曜日ニ禁食ヲ釋クノ度ハ教會ノ成規ニ定メラル、ナリ其成規ニ依ルニ常ニ禁食スル、其日ノ四分ノ三ニ至ラズシテ聖體禮儀ノ後ニ酒、油及ヒ食物ヲ用ユルヲ許サル

第六十五條 若シ教衆ノ者或ハ俗人イウデヤ人若クハ異端者ノ會堂ニ入リテ祈禱スレバ聖位ヲ除黜セラレ教會ノ親與ヲ絶タル可シ

第六十六條 若シ教衆ノ者諍鬭ノ時人ヲ毆チ一撃之ヲ殺



セバ其粗暴ナルヲ以テ除黜セラル可シ若シ俗人之ヲ行  
ハシ親與ヲ絶タル可シ

第六十七條 若シ人未タ契約セラレザルノ處女ヲ犯ス時  
ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ其者他女ヲ娶ルヲ許サズ假  
令其女不具貧賤タリト雖己ノ選ビタル女ヲ娶ラザル  
可ラス

第六十八條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭、人ヨリ二次手撫  
ヲ受レバ其者並ニ手撫セシ者モ聖位ヲ除黜セラル可シ  
但シ實ニ異端者ヨリ手撫ヲ受ケタルヲ判然ナル時ハ此  
限ニ非ス蓋シ異端者ヨリ洗禮若クハ手撫ヲ受ケタル者

ハ教會ノ信者若クハ役者タル能ハズ  
第六十九條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ副輔祭或ハ  
誦經者或ハ唱歌者ハ前ノ聖四旬齋期若クハ水曜日  
若クハ金曜日ニ身体薄弱ノ妨アルニ非スシテ禁食セザ  
ル時ハ除黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ  
第七十條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ教衆ノ名  
簿中ニ在ル者イウデヤ人ト共ニ禁食シ若クハ彼等ト共  
ニ祭ヲ爲シ若クハ彼等ヨリ其祭日ノ供物例ハ淡餅ノ  
如キ其他之ニ類スル者ヲ受ル時ハ除黜セラル可シ俗人  
ハ親與ヲ絶タル可シ



第七十一條 若シ「ハリスデアニ」タル者異教人ノ寺院若  
クハイウテヤ人ノ會堂ニ其祭日ニ於テ油ヲ献シ若クハ  
蠟燭ヲ點ズル時ハ教會ノ親與ヲ絶メル可シ

第七十二條 若シ供職者タル者或ハ俗人聖堂ヨリ蠟若ク  
ハ油ヲ竊取スル時ハ教會ノ親與ヲ絶メル可シ且五倍ヲ  
以テ其取リタル所ノ物ヲ償フ可シ

第七十三條 聖トセラレシ金銀ノ器物若クハ幕ハ復タ之  
ヲ私用ニ充ツ可ラズ蓋シコレ不法ナリ若シ此事ニ認メ  
ラル、者アラバ絶交ヲ以テ罰セラル可シ

第七十四條 信依ス可キ人ニ告訴セラレタル主教ハ必ス

自ラ主教等ニ召喚セラレザル可ラス若シ出頭シテ首伏  
シ若クハ定罪セラレ、時ハ懲罰ヲ科ス可シ若シ召喚セ  
ラレテ之ヲ聽カザレバ再ビ之ニ主教二人ヲ遣ハシテ招  
ク可シ若シ又之ヲ聽カザレバ三次之ニ主教二人ヲ遣ハ  
シテ招ク可シ若シ之ヲモ敬セズシテ出頭セザレバ公會  
ハ宜ク之ヲ審鞠シテ其定斷ヲ宣告シ以テ之ニ裁判ヲ避  
ケテ僥倖ヲ得ルヲ思ハザラシムベシ

第七十五條 主教ニ對スルノ證據ニハ異端者ヲ受理ス可  
ラス又信者一名ニテモ不充分ナリ蓋シ二三證者ノ口ヲ  
以テ言々確證有ルヲ致ス(馬太六十八節)



第七十六條 主教ハ兄弟若クハ子若クハ其他親族ノ者ノ  
 歡ヲ得ルガ爲メニ己ノ欲スル者ヲ主教ノ位ニ立ツ可ラ  
 ス蓋シ主教ノ後嗣ヲ立テ神ニ屬スル者ヲ以テ人間ノ欲  
 情ニ奉ズルハ正シカラザルナリ蓋シ神ノ教會ヲ繼續ノ  
 權下ニ置ク可ラス若シ之ヲ行フ者アラバ其舉立ハ無効  
 ノ者ト爲シ自ラ絶交ヲ以テ罰セラル可シ

第七十七條 一目ヲ失ヒ若クハ足ヲ傷ヒシ者若シ主教タ  
 ルニ堪フル時ハ主教ト爲ルヲ得可シ蓋シ人ヲ汚スモノ  
 ハ身体ノ虧乏ニ非スシテ靈魂ノ汚穢ナリ

第七十八條 聾者瞽者ハ主教ト爲ル可ラス其汚サレタリ

ト爲スガ爲メニ非ス唯教會ノ事務ニ妨ゲナカラシガ爲  
 メナリ

第七十九條 惡魔ヲ有スル者ハ教衆ニ採用セラル可ラス  
 又信者ト共ニ祈ル可ラス免カルレバ信者ト共ニ受ケラ  
 ル可シ若シ其職ニ堪フル時ハ教衆ニ加ヘラル、ヲ得可  
 シ

第八十條 異教中ヨリ歸依シテ領洗セシ者若クハ不善ノ  
 生行ヨリ反歸セシ者ヲ遽ニ主教ニ舉選スルハ不正ナリ  
 蓋シ試験セラレザル者他人ノ師ト爲ルハ正シカラズ但  
 シ神ノ恩寵ニ由テ之ヲ成スハ此限ニ非ス



第八十一條 我等言ス主教或ハ司祭ハ民治ニ干涉ス可ラ  
 ス宜ク間然ナク教會ノ事務ニ從事スベシ故ニ或ハ說得  
 テ之ヲ行ハザラシムベク或ハ除黜セラル可シ蓋シ主  
 ノ誠ニ依ルニ人、三主ニ事フルヲ能ハズ(馬太六章  
 二十四節)  
 第八十二條 家主ノ承諾ナクシテ奴隸ヲ教衆ト爲シ其主  
 人ヲ困辱スルヲ許サズ蓋シ之ニ由リテ家内ノ紊乱ヲ生  
 スルニ由ル若シ奴隸ハ我等ノヲニシムノ如ク教會ノ職  
 ニ任スルニ堪フル者ニシテ其主、承諾シテ之ニ自由ヲ與  
 へ家ヨリ遣歸スル時ハ登庸セラル、ヲ得可シ  
 第八十三條 主教或ハ司祭或ハ輔祭軍事ニ從事セシ者其

職即チローマノ軍職ト神品ノ職ヲ兼任セント欲スル者ハ  
 聖位ヲ除黜セラル可シ蓋シ「ケサリ」ノ物ハ「ケサリ」ニ歸シ  
 神ノ物ハ神ニ歸ス可シ(馬太二十二  
 章二十一節)  
 第八十四條 凡ソ義ニ依ラズシテ王侯ヲ困辱スル者ハ罰  
 チ蒙ル可シ若シ教衆ノ者之ヲ行ハ、聖位ヲ除黜セラル  
 可シ俗人ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ  
 第八十五條 凡ソ爾等教衆ニ屬スル者及ヒ俗人ノ尊ビ且  
 聖ト爲ス可キ舊約ノ書ハ左ノ如シモイセイノ五書即チ  
 創世紀、出埃及記、レウイト記、民數記、復傳律例書是ナリナリ  
 ノ子イイススノ書一卷、士師記一卷、ルツ記一卷、列王記



四卷、歴代史略（即チ日誌ノ殘篇）二卷、エズドラノ書二卷、エシライノ書一卷、マツカウノ書三卷、イオフノ書一卷、詩篇一卷、ソロモンノ書三卷即チ箴言、傳道書、雅歌、是ナリ、預言者ノ書十二卷、イサイヤノ書一卷、イエレミヤノ書一卷、イゼキイリノ書一卷、ダニイルノ書一卷ナリ、此外碩學シラフノ智慧書ヲ加ヘテ爾等ノ若年輩之ヲ學ブ可シ、我等ノ新約ノ書ハ左ノ如シ、四福音書即チマトフ、エ、マルク、ルカ、イナアンノ書是ナリ、パウエルノ書十四卷、ペートルノ書二卷、イナアンノ書三卷、イヤコフノ書一卷、イウダノ書一卷、クリメントノ書二卷、及ヒ我レクリメント爾等主教ノ爲

メニ述ベタル規律書八卷（此書中深奥ノ意アルヲ以テ衆人ニ公告スルニ及パス）并ニ我等使徒ノ行實ナリ、クリメントノ書シタル使徒規律ニ關シテ時世ト神ノ旨ニ由リテ更ニ新規則ヲ制定スルニ至レリ、即チ第六全地公會ノ規則第二條是ナリ、聖書トシテ聖堂ニ誦讀ス可キニ定メラレタル書ニ付テ尙ホ左ノ規則アリ、即チラオディキヤ公會ノ第六十條、カルツゲン公會ノ第三十三條、同ク聖アファナシイハ、第三十九ノ祭日ノ書、神學者聖グリゴリイ及ヒ聖アンフィロヒイノ詩是ナリ







ニケヤノ第一聖全地公會規則

第一條 病ニヨリテ醫者ニ陰莖ヲ截斷セラレ或ハ夷民ニ  
關割セラレタル者ハ依然教衆タル可シ若シ健康ニシテ  
自ラ關割セシ者ハ假令教衆中ニ在リシ者ト雖モ除黜ス  
可キナリ而シテ自今此ノ如キ者ヲ選舉ス可ラス但シコ  
レ明ニ故意ニ之ヲ行ヒ妄リニ自ラ關割スル者ヲ云フ之  
ニ反シテ夷民或ハ主人ニ關割セラレタル者ハ若シ其職  
ニ堪フル時ハ規則(使徒規則)二十一條(之ヲ教衆ニ加フルヲ准許  
ス

第二條 己ムヲ得ザルノコトニ由リ或ハ其他人意ニ由テ教



會規則(使徒規則)ニ反スルノト多ク生シタリ即チ異教中ヨリ聖教ニ入りテ久シカラズ暫時啓蒙者タリシ者ヲ速ニ靈魂ノ浴盤ニ入レ洗後又直ニ主教或ハ司祭ノ職ニ登崇スルアリ是故ニ以後決シテ此ノ如キトヲ爲ス可ラザルヲ當然ト認メタリ蓋シ啓蒙者ニモ時間ヲ與ヒ又洗後尙ホ試験ヲ爲スヲ要ス蓋シ明ニ使徒ノ書ニ云フ甫メテ教ニ入ル者ヨリセズ恐クハ自ラ驕テ魔鬼ノ刑ト網トニ陷ラン(提摩太前書)ト若シ時ヲ經テ靈ノ罪ヲ認メラレニ三ノ證人ニ定罪セラレタル者ハ教衆ヨリ除黜セラレ可シ之ニ反シテ行フ者ハ敢テ大公會ニ抗スル者トシテ自

ラ教衆除黜ノ危難ニ服スル者トス

第三條 大公會確定セシト左ノ如シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ教衆タル者ハ家ニ同居ノ婦女ヲ許サズ但シ母或ハ姉妹或ハ伯叔母或ハ全ク嫌疑無キ者ハ此限ニ非

ス  
此規則ノ主意ハ神品タル者ノ嫌疑ヲ防クニ在リ故ニ此ニ制定セラレシ禁ハ唯無妻ノ司祭、輔祭及ヒ副輔祭ニ關ス可シ蓋シ夫婦相住ムノ家ニハ妻ニツイテ他ノ婦女居住スルモ疑テ生セザルナリ

第四條 主教ハ其州中ノ悉クノ主教ニテ立ルヲ最モ適當



ノ一ト爲ス若シ已ムヲ得ザルノ事ニ由リ或ハ道路ノ遠  
 隔ナルニ由リテ不便ナル時ハ少ナクモ三主教一所ニ集  
 會シ不參ノ者ハ書ヲ以テ同意ヲ表シ而シテ後手撫ヲ行  
 フ可シ各州ニ於テ此ノ如キ一ヲ認定スルハ其府主教ニ  
 屬ス

第五條 凡ソ主教等ニ其各主教部ニ於テ教會ノ親與ヲ絶  
 タレタル者ニ關シテハ教衆ニ屬スルト俗人トニ論ナク  
 或主教ニ親與ヲ絶タレタル者ハ他主教ニテ受ケラル可  
 ラザル一ヲ定メラレタル規則(使徒規則三十二條)ヲ遵守ス可シ然  
 レハ彼等或ハ主教ノ小量ニ由リ或ハ爭論ニ由リ或ハ其

他之ニ類スルノ不滿ニ由テ親與ヲ絶タレタルニ非ザル  
 ナキカチ宜ク審査スベシ故ニ此事ノ適當ノ審査ヲ爲ス  
 ガ爲メニ其宜キヲ計リテ定メシ一左ノ如シ各州ニ於テ  
 一年ニ二回公會ヲ爲シ凡テ州中ノ諸主教一所ニ集會シ  
 テ如此ノ紛疑ヲ審査シ而シテ確然主教ニ對シテ不正ナ  
 リト認メラレシ者ハ衆人斷然之ヲ親與ニ受ルニ堪ヘザ  
 ル者ト認定シ以テ主教ノ公會ハ尙ホ寛大ナルノ決斷ヲ  
 宣告スルヲ可トスル時ヲ待ツ可シ公會ハ一ハ四旬齋期  
 ノ前ニ於テス可シ凡ソノ不滿ヲ除却シテ神ニ潔淨ノ供  
 物ヲ獻スルガ爲メナリ又一ハ秋ノ近キニ於テス可シ



第六條 エギペト、リウイヤ、ボントラ 諸州ニ行ハレ來ル舊慣  
 ナ遵守シアレキサンドリヤン主教ハ此諸教會ノ上ニ權  
 ナ有ス可シ蓋シロマ主教モ亦此例有リ又同クアンタイオ  
 ヒヤ及ヒ其他ノ諸州ニ於テモ教會ノ特典ヲ守ル可シ凡  
 テ左ノ事明白タル可シ則チ凡ソ府主教ノ准許ナクシテ  
 主教ニ立ラレタル者ハ大公會其者ノ主教タル可ラザル  
 ナ定メタリ若シ衆人ノ公選其當ヲ得テ教會ノ規則ニ合  
 シタルヲ二三私人私自ノ爭論ヲ以テ之ニ抗スル時ハ選舉  
 者ノ多數ノ意見之ニ勝ツ可キナリ

第七條 エリヤ(即チイエエルサリムナリ)ニ居ルノ主教ヲ敬

重ス可キ慣例古傳確定スルニ由リ彼ソハ都會ニ屬スル  
 ノ尊貴ヲ守リテ榮譽ノ位ヲ有ス可シ

第八條 當テ自ラ潔淨者ト稱セシ者ニシテ公使徒ノ教會  
 ニ合スル者ハ聖大公會ハ之ニ手ヲ接シテ依然教衆タルヲ  
 適當ト爲ス彼等ハ先ツ書ヲ以テ公使徒ノ教會ニ合シ其  
 制規ニ遵從ス可キヲ即チ再婚者及ヒ寤逐ノ時教ヲ棄テ  
 ル者ノ爲メニハ悔改ノ時間モ定メラル赦罪ノ期限モ定  
 メラルハナ以テ之ヲ教會ノ親與ニ受ク可キヲ證ス可  
 シ彼等萬事ニ於テ公教會ノ制規ニ循從ス可キヲ要ス故  
 ニ凡ソ邑村若ッハ都府ニ於テ教衆タル者唯彼等ヨリ手



撫セラレタル者ナル時ハ其品級ニ在ル可シ若シ公教會  
 ノ主教有ル所ニ於テ彼等ノ中ヨリ教會ニ歸依スル者ア  
 レハ素ヨリ正教會ノ主教ハ主教ノ尊貴ヲ有シ而シテ潔  
 淨者ト稱スル者ノ主教ト稱スル者ハ司祭ノ尊敬ヲ有ス  
 可シ但シ該地ノ主教ハ其者モ主教ノ名稱ノ尊敬ニ與ル  
 可キヲ可トスル時ハ此限ニ非ス若シ主教之ヲ欲セザレ  
 ハ唯之ヲ教衆ニ加フルガ爲メ別ニ「ホレエビスコプ」(境區  
 ナル主教部ヲ監督スル主教ニ屬シテ其境)若クハ司祭ノ  
 區内ノ邑村ニ在ル教會ヲ管理スル者ナリ)若クハ司祭ノ  
 任所ヲ設ク可シ一都府ニ二主教有ラザランガ爲メナリ  
 羅馬教會ノ司祭ノワト黨派ノ異端者自ラ潔淨者ト稱

セリ彼等窘逐ノ時教ヲ棄タル者ノ悔改スルヲ受ケズ  
 再婚者ヲ決シテ教會ノ親與ニ受ク可ラザルヲ教ヘ此  
 ノ傲慢不人情ノ說ヲ爲シ自ラ己ノ社會ヲ以テ潔淨ノ  
 者トナセリ

第九條 試驗ヲ經ズシテ司祭ニ舉ラレタル者若クハ試驗  
 ノ時己ノ罪ヲ告解シタレバ其告解ノ後規則ニ違背シテ  
 手撫セラレタル者アレハ規則(使徒規則二十五條)ハ此ノ如キ者ニ  
 聖務ヲ行フヲ許サズ蓋シ公教會ハ必ズ無玷(提摩太前書  
 三章二節)ヲ要ス

第十條 若シ棄教者擧立者ノ不知ニ由リ若クハ知リテ教



衆ニ擧ラレタリトモ教會規則ノ方ヲ弛メズ蓋シ此ノ如キ者ハ發覺ノ後聖位ヲ除黜セラル可シ

第十一條 リキニイノ窘逐ノ時ノ如ク強迫若クハ財產剝奪若クハ危害若クハ其他之ニ類スルノコトニ由ルニ非スシテ教ヲ棄タル者ハ仁慈ヲ加フベキニ非ザレヒ公會ハ之ヲ優恤ス可キヲ定メタリ故ニ誠心ニ悔改スル者ハ三年間信者ノ如ク誦經聽聞人ノ中ニ在リ七年間聖堂ニ俯伏シテ赦罪ヲ請求シ二年間人民ト共ニ祈禱ニ與ル可シ但シ聖機密ヲ領スルヲ得ズ

第十二條 恩寵ニテ召サシテ教ヲ認メタル者初メ熱心熾

ニシテ軍帶ヲ脱セシモ後チ又犬ノ如ク轉シテ其吐キタル物ヲ食フ者或ハ金銀ヲ用ヒ賄賂ヲ以テ軍職ニ復スルニ至リシ者アリ彼等ハ三年間外廊ニ在リテ聖書ヲ聽聞セシ後十年間聖堂ニ俯伏シテ赦罪ヲ請フ可シ凡テ此事ニ於テハ其者ノ心地ト悔改ノ情狀ニ注意ス可キナリ蓋シ恐懼、流涕、忍耐、慈惠ヲ以テ外儀ヲ以テセズ實行ヲ以テ反正ヲ證スル者ハ定時間聽聞セシ後祈禱ニ加フルハ至當ナリ加之主教ハ猶ホ之ニ仁慈ヲ施シテ可ナリ又己ノ犯罪ヲ輕視シ唯聖堂ニ入ルコトヲ以テ反正ニ足レリトナス者ハ全ク痛悔ノ時限ヲ遵行ス可シ



第十三條 臨終ノ者ニ關シテハ今モ古ノ律例規定ヲ守リ  
 臨終者ニハ末期ノ最モ緊要ナル聖賜ヲ領スルヲ得セシ  
 ム可シ若シ將ニ生ヲ終ヘントシテ領聖セシ者蘇生スル  
 時ハ唯祈禱スル者ノ中ニ加ハル可シ凡テ臨終ノ者ハ何  
 人タリトモ凡ソ聖體ヲ領スルヲ請フ時ハ主教ノ吟味ヲ  
 以テ聖賜ヲ授ケラル可シ

第十四條 啓蒙者ニシテ教ヲ棄タル者ニ關シテハ聖大公  
 會ハ之ニ三年間唯聖書聽聞人ノ中ニ在リ而シテ後啓蒙  
 者ト共ニ祈禱ス可キヲ適當ト爲ス

第十五條 數多ノ攪擾及ヒ生起セシ紛乱ノ故ニ由リ使徒

規則ニ反シテ或地方ニ行ハル、ノ風習ハ全ク禁止ス可  
 キヲ議定セラレタリ即チ主教或ハ司祭或ハ輔祭ハ一都  
 府ヨリ他府ニ移轉ス可ラザルコト是ナリ若シ此聖大公會  
 ノ制定ノ後此ノ如キコトヲ爲シ若クハ自ラ己レニ對シテ  
 此ノ如キコトヲ爲スヲ許ス時ハ其任定ハ全ク無効ノ者ト  
 爲シ移轉セシ者ハ主教或ハ司祭或ハ輔祭ニ手撫セラレ  
 タルノ教會ニ歸サル可シ

第十六條 司祭或ハ輔祭或ハ凡テ教衆ニ屬スル者輕率ニ  
 シテ且ツ眼前ニ神ヲ畏ル、ノ心ナク教會ノ規則（使徒規  
則十五條）ヲ曉知セスシテ自己ノ教會ヲ離ル、時ハ他ノ教會ニ



於テ決シテ之ヲ受ク可ラズ之ニ種々ノ説諭ヲ加ヘ其境  
 區ニ歸ス可シ或ハ若シ執拗シテ聽カザレバ之ニ親與チ  
 絶ツ可キナリ又若シ誰カ妄リニ他人ノ貫轄ニ屬スル者  
 チ奪ヒ之チ其本主教即チ其教衆ニ屬スル者ガ避ケシ所  
 ノ主教ノ承諾ヲ經ズシテ手撫スル時ハ其手撫ハ無効ノ  
 者タルベシ

第十七條 教衆ニ屬スル者貪欲、利慾ニ耽リ聖書ニ銀ヲ貸  
 シテ息ヲ取ル可ラス(詩篇五十四)ト云ヘルヲ忘レ貸附ヲ爲シ  
 テ百分ノ利ヲ責求スル者多キニ由リ聖大公會裁定セシ  
 ヲ左ノ如シ若シ此ノ制定ノ後貸附ヲ爲シテ利息ヲ取ル

者若クハ他ノ法方ヲ以テ此業ヲ爲ス者若クハ半利ヲ取  
 ル者若クハ其他可耻ノ利慾ノ爲ニ此ノ如キヲ企ツル  
 者アレバ教衆ヨリ除黜セラレ神品ノ門流ヨリ除カル可  
 シ

第十八條 聖大公會或地方及ヒ或都府ニ於テ輔祭ハ司祭  
 ニ聖體機密ヲ授與スルヲ有リト聞ク然ルニ奉獻スルノ  
 權ナキ者ハ奉獻スル者ニハリストスノ體ヲ授與ス可キ  
 ヲ規則ニテモ慣行ニテモ傳ハラズ且甚シキハ或輔祭等  
 主教ニ先チテ聖體機密ニ觸ル、者モ有リト聞ク故ニ此  
 等悉ク禁止ス可シ即チ輔祭ハ己レ主教ノ役者ニシテ司



祭ヨリ下位ノ者タルヲ知リテ己ノ分ニ止ル可シ彼等宜ク順次ニ由テ司祭ノ後ニ主教或ハ司祭ノ授與スル聖體機密ヲ領スベシ又輔祭ハ司祭ノ間ニ並座スルヲモ許サズ蓋シコレ規則ニ由ラズ亦順序ニ由ラザル者ナリ若シ此制定ノ後聽從スルヲ欲セザル者アラハ其輔祭職ヲ停禁ス可シ

第十九條 「パウリアン」黨人ニシテ後チ公教會ニ歸セシ者ハ凡テ復タビ之ヲ施洗ス可キノ制ヲ定ム若シ前ニ教衆ニ屬セシ者ニシテ無玷且責ム可キナキ者ハ再洗ノ後公教會ノ主教之ヲ手撫ス可シ若シ試験ニ由テ神品タルコ

堪ヘザル者ナル時ハ聖位ヲ除黜セラル可キ者トス又女輔祭及ヒ凡テ教衆ニ屬スル者ニ關シテ同ク此例ヲ遵行ス可シ女輔祭トハ我等衣服ニ由テ此ノ如ク稱セララル者ヲ云フ但シ彼等手撫ヲ受ケタルヲナシ故ニ全ク俗人ニ加ヘラル、ヲ得可シ

第二十條 主日及ヒ五旬日ニ膝ヲ屈ムル者アルニ由リ各主教部ニ於テ皆同規ヲ守ランガ爲メ聖公會ハ立ツテ神ニ祈禱スルヲ適當ト爲ス



第一條 コンスタンティノールノ第二聖全地公會規則  
 シテ左ノ如シワイフィニヤノニケヤノ公會ニ會セシ三百十  
 八人ノ諸父ノ信經ハ廢ス可ラス宜ク變易セズシテ存ス  
 ベシ諸異端ハ「アナフエマ」ニ附セラル即チエウノミイ黨ア  
 ノメイ黨、アリイ黨若クハエウドクシイ黨、半アリイ黨若  
 クハ抗聖神者、サワエリイ黨、マルケル黨、フョティン黨及ヒアポ  
リナリイ黨ノ異端是ナリ

第二條 州主教ハ己ノ州ノ境區外ノ教會ニ己ノ權ヲ及ボ  
 シテ教會ヲ混ス可ラス乃チ規則ニ依テアレキサンド

ヤノ主教ハ唯エギペトノ諸教會ヲ治理シ東方ノ主教等  
 ハニケヤノ規則ニテ認定セラレタルアンタイオヒヤ教會  
 ノ特典ヲ有シテ唯東方ヲ治理ス可シ亦アシヤ州ノ主教  
 ハ唯アシヤヲ治理シポントノ主教ハ唯ポント州ノ事ヲ  
 管理シフラキヤ主教ハ唯フラキヤノ事ヲ管理ス可シ主  
 教ハ招致セラレザレバ己ノ州ノ境區外ニ移轉シテ手撫  
 チ爲シ或ハ其他教會ノ事務ヲ行フ可ラス教會ノ州ニ關  
 スル前記ノ規則ヲ循守シテ各州ノ事務ハニケヤニ於テ  
 定メラレタル如ク其州ノ公會ニテ議定ス可キハ勿論ナ  
 リ外邦人ニ在ル神ノ教會ハ今ニ至ルマデ遵行セシ諸父



ノ慣例ニ循テ治理ス可シ

第三條 コシヌスタンテイノ イボリノ主教ハ ロマ 主教ニ次テ

榮譽ノ特典ヲ有ス可シ何トナレバ此ノ都會ハ新 ロマ ナ

リ

第四條 マクシム、キニツノ マ 及ヒ彼レガ コンスタンティノ

イボリニ生シタル紛擾ノ マ、マ シムハ主教ニアラザリ

シ且主教ニアラズ凡ソ彼レニ教衆ノ位ニ立ラレタル者

ハ皆教衆ニアラズ彼レノ爲メニ行ヒシ マ 及ヒ彼レガ行

ヒシ マ 皆虛ナリト爲ス

第五條 西方ノ卷軸ニ關シテハ アンテイオヒヤニ於テ父及

ヒ子及ヒ聖神ノ惟一ノ神性ヲ信認スル者モ我等之ヲ受  
シ

茲ニ西方主教ノ卷軸ト云フハ ニケヤノ信經ヲ認定セ

シサル ディキヤ公會ノ規定ヲ書セシモノナリ

第六條 教會ノ規順ヲ紊乱廢滅セント欲シ惡念ヲ以テ讒

誣ヲ以テ教會ヲ治理スル正教ノ主教ニ對シ其罪ヲ構造

スル者多シ是レ唯神品者ノ名譽ヲ毀損シ平穩ノ民ニ爭

乱ヲ生セントスルノ意ニ外ナラス依テ コンスタンテイノ

イボリニ會セシ主教ノ聖公會議定セシ マ 左ノ如シ凡ソ

審査セズシテ告訴者ヲ受理ス可ラス諸人ニ教會ヲ治理



大ル者ヲ告訴スルヲ許ス可ラス但シ又悉ク拒絕ス可ラ  
 大然レモ若シ主教ニ對シテ其私自ニ關スルコ鬻ヘハ財  
 産ノ剝奪若クハ其他不義ヲ受ケタルコノ私訴ヲ爲ス時  
 ハ其告訴者ノ何人タルト其宗教トヲ問フ可ラス凡ソ主  
 教ハ平心ニシテ自ラ壓虐ヲ受ケタリトナシテ訴フル者  
 ニハ如何ナル宗教ノ者タリトモ公判ヲ與フ可キナリ若  
 シ主教ヲ訴ヘタル罪、教會ノ事ニ關スレバ告訴者ノ何人  
 タルヲ檢査ス可シ第一異端者ニハ教會ノ事ニ由リテ正  
 教ノ主教ヲ告訴スルヲ許ス可ラス我等ノ異端者ト稱ス  
 ルハ即チ曾テ教會ヨリ絶タレシ者ト其後我等ガ「アナフエ

マ」ニ附セシ所ノ者及ヒ其他偽リテ正シク我等ノ宗教ヲ  
 信奉スル者ノ如クナスト雖モ然レモ分離シテ正規ニ由  
 テ立テラレタル我等ノ主教ニ背反シテ集會ヲ爲ス者ヲ  
 云フ又若シ教會ニ屬スル者タリトモ罪アリテ前ニ定罪  
 セラレテ逐斥セラレ或ハ教衆或ハ俗人中ヨリ絶レタル  
 者ハ其自ラ服シタルノ罪ヲ償ハザレバ主教ヲ告訴スル  
 チ許ス可ラス亦前ニ自ラ告訴セラレシ者ヨリ主教或ハ  
 其他教衆ノ者ニ對スルノ告訴ハ判然其告訴セラレタル  
 罪狀ノ無罪ナルヲ證明セザレバ受理ス可ラス若シ異端  
 者ニモアラズ教會ノ親與ヲ絶タレシ者ニモアラズ定罪



セラレタル者ニモアラズ若シハ前ニ何ノ罪過ニモ告訴  
 セラレタル者ニモ非ザル者教會ノ事ニ由リテ主教ヲ告  
 訴セント欲スル時ハ聖公會ハ先ツ其州中ノ諸主教ニ其  
 訴狀ヲ具申シ其前ニ於テ答辨スル主教ニ對シ證據ヲ以  
 テ己ノ呈告ヲ證明ス可キヲ命ス若シ州中諸主教部ノ主  
 教等主教ヲ告訴セシ訴狀ニ由テ紊乱ヲ正ス可ハザル  
 時ハ告訴者ハ此事件ニ由テ招集セラレタル大州主教等  
 ノ大公會ニ轉ス可シ然レモ預メ書ヲ以テ若シ事ノ推究  
 ノ後被告ノ主教ヲ譏誣スル者タルト露顯スル時ハ被告  
 者ト同様ノ罰ヲ受ク可シトノ恐レヲ以テ證スルニ非ザ

レハ其訴訟ノ覆審ヲ要求スルコト能ハズ若シ以前ノ審鞠  
 ニ由リテ定メラレタルノ判決ヲ輕蔑シ或ハ王聽ヲ煩ハ  
 シ或ハ世俗官長ノ裁判ヲ煩ハシ或ハ全地公會ヲ煩ハシ  
 以テ州主教等ノ名譽ヲ凌辱セントスル者ハ規則ヲ蔑視  
 シ教會ノ規順ヲ破ル者タルニ由リ決シテ其告訴ヲ受理  
 セラル可ラス

第七條 異端者ノ中ヨリ正教ニ合シ救ハル、者ノ數ニ加  
 ハ、ル者ヲ左ノ規條及ヒ舊慣ニ由テ受ク可シ即チアリ  
 イ黨人、マケドニイ黨人、サワテイ黨人并ニ自ラ潔淨者及  
 ビ善人ト稱スルノワト黨人、十四日者若シハ「テトラディト」



及ヒアボリナリイ黨人ハ手書ヲ以テ聖公使徒ノ神ノ教  
 會ノ教フル如ク教ヘザル諸異端ヲ詛フ時ハ印記シテ之  
 ヲ受ク可シ即チ聖膏ヲ以テ第一ニ額ニ膏シ次ニ目及ヒ  
 鼻口耳ニ膏ス可シ而シテ之ヲ印スル時聖神ノ恩賜ノ印  
 記ト誦ス可シ又一次浸没ヲ以テ施洗スルエウノミイ黨  
 人爰ニフリギヤ人ト稱スル「モンタニスト」及ヒ父子ト  
 一位ナリトノ説ヲ持シ及ヒ其他忍フ可ラザルヲ行フ  
 サワリイ黨人并ニ其他ノ諸異端者(蓋シ爰ニ此ノ如キ者  
 多シ特ニガラテイヤ地方ヨリ出タル者ナリ)ノ中ヨリ正教  
 ニ合セント欲スル時ハ彼等ハ悉ク異教人ノ如クニシテ

受ケラル可シ即チ第一日ニ之ヲ「バリスステア」ニシテ爲シ  
 第二日ニ啓蒙者ト爲シ第三日ニ三次其額ト耳トニ嘘テ  
 惡魔ヲ阻絶シ此ノ如ク之ヲ啓蒙シテ之ヲシテ聖堂ニ留  
 リ聖書ヲ聞カシメ而シテ後之ニ洗禮ヲ授ク可キナリ



エフェスノ第三聖全地公會規則

第一條 教會ノ事故ニ由リ若クハ身體ノ故ニ由リ聖公會ニ臨席セスシテ己ノ在所或ハ都府ニ止リタル者モ此公會ニ於テ議定セラレシヲ知ラザル可ラス故ニ爾等聖ニシテ愛ス可キ者ニ報ス若シ或州ノ府主教聖全地公會ニ背反シテ背教人ノ黨ニ加ハリシ時若クハ此後加ハル時又ハケレステイノ説ヲ受ケシ時若クハ此後受クル時ハ自今既ニ公會ニテ全ク教會ノ親與ヲ斷絶セラレ既ニ本務ニ非ザル者トシテ其州ノ主教等ニ對シ決シテ何事モ爲ス能ハス且全ク之ヲ主教ノ位ヨリ除黜スルガ爲メ

其州中ノ正教ヲ奉スル諸主教及ヒ近隣ノ府主教等ノ職治ニ服セララル可シ

第二條 若シ或主教部ノ主教聖公會ニ臨席セスシテ背教ノトニ加ハリタル者若クハ加ハラント欲スル者又ハチストリイノ逐斥ニ署名シテ後チ背教人ノ黨ニ轉ゼシ者ハ聖公會ノ命ニ由リテ全ク神品ヨリ除カレ其位ヲ除黜セララル可キ者トス

第三條 或都府或ハ邑村ニ於テ教衆ニ屬スル者ニシテ正教ヲ奉スルガ爲メチストリイ及ヒ其黨人ニ神品ヲ奪ハレタル者ニハ我等其位ニ復スルノ權利ヲ與ヘリ凡テ正



教全地公會ト同意ナル教衆ノ者ハ決シテ正教ニ背キシ  
 者或ハ背クノ主教ニ從屬ス可ラザルヲ命ス  
 第四條 教衆タル者背反シテ私カニ若クハ公然トテスト  
 リイ或ハケレステイノ説ニ從ハント欲スル者アレバ聖  
 公會同ク聖位ヲ除黜セラル可キ者ト公認セリ  
 第五條 若シ不合宜ナル行爲ノ爲ニ聖公會若クハ本主教  
 ニ定罪セラレシ者有ル時テストリイ及ヒ其黨人ハ規則  
 ニ反シ其隨意ノ行爲ヲ以テ彼等ニ教會ノ親與若クハ神  
 品ノ位ヲ復セシトアリ或ハ復セントスルトアレバ我等  
 之ヲ無効ノ者ト公認セリ彼等ハ尙ホ聖位ヲ除黜セラレ

タル者ナル可シ

第六條 亦エフェスノ聖公會ニ於テ制定セラレシモノヲ變  
 壞セント欲スル者アレバ聖公會若シ主教或ハ教衆ニ屬  
 スル者ナレバ全ク其位ヲ除黜セラレ俗人ナレバ教會ノ  
 親與ヲ絶タル可キト議定セリ

第七條 此ヲ誦讀セシ後聖公會議定セシト左ノ如シニケ  
 ヤ城ニ聖神ト共ニ集會セシ諸聖父確定セシ者ノ外誰モ  
 他ノ教理ヲ述ベ或ハ書シ或ハ著作スルヲ許ス可ラズ若  
 シ敢テ他ノ教理ヲ著作シ又ハ異教若クハイウデヤ教若  
 シハ凡ソ或異端ヨリ反正シテ眞理ヲ識ラント欲スル者



ニ示シ或ハ勸ムル者ハ若シ主教或ハ教衆ニ属スル者ナ  
 レバ主教ハ主教ノ職、教徒ハ教衆ノ職ヲ除免セラル可シ  
 俗人ナレバ「アナフエマ」ニ附セラル可シ又同ク主教或ハ教  
 徒或ハ俗人若シ司祭ハリシイノ出シタル神ノ獨生子ノ  
 人体ヲ藉リタルノ説或ハ之ニ附加セシチストリイノ  
 不虔ニシテ壞傷セル定理ニ従ヒ若クハ之ヲ教フルヲ露  
 顯ナル時ハ此聖全地公會ノ決議ニ服ス可シ即チ主教ハ  
 主教ノ職ヲ免セラレテ除黜セラレ教徒ハ同ク教衆ヨリ  
 除黜セラル可シ俗人ハ前ニ云ヒシ如ク「アナフエマ」ニ附セ  
 ラル可シ

＊

公會ニ於テコソ規則ヲ定ムル前ニニケヤノ信經及ヒ  
 フイラデルフヤノ司祭ハリシイン公會ニ出シタル變壞  
 セル信經ヲ誦讀セリ

第八條 最モ神ニ愛セラル、我等ノ同主教リギン及ヒ之  
 ト共ニ居ルキブル州ノ最モ虔敬ナル主教シノン及ヒ  
 エワグロイハ教會ノ定規及ヒ聖使徒ノ規則ニ反シテ衆  
 人ノ自由ヲ妨害スルノ新事ヲ報ゼリ世間ニ流行スルノ  
 病ハ大害ヲ生スルヲ以テ嚴重ナルノ治方ヲ要シ且殊ニ  
 最モ虔敬ナル人々聖公會ニ來リ書ヲ以テ言ヲ以テ我等  
 ニ報ゼシ如クアンテイオヒヤ城ノ主教ハキブルニ於テ舉



立チ行フノ權無キニ由リキブルノ聖教會ヲ治管スル者  
 ハ干涉壓虐ヲ受ケズ諸聖父ノ規則ト舊慣ニ循テ自ラ最  
 モ敬虔ナル主教ヲ立ルノ自由ヲ有ス可シ同ク其他ノ諸  
 州及ヒ各主教部ニ於テモ皆之ヲ遵守ス可シ即チ最モ神  
 ニ愛セラル、主教ハ最初ヨリ己レ或ハ其前任者ニ屬セ  
 ザル他ノ主教部ニ其權ヲ及ボス可ラス若シ或ハ權ヲ及  
 ボシ強テ他ノ主教部ヲ從屬セシ者アレバ之ヲ還附シ諸  
 父ノ規則ヲ破ル可ラズ聖務ヲ行フチ名トシテ世ノ權威  
 ノ傲慢ヲ僭竊ス可ラス且不識不知吾主イ、ス、ハリス  
 トス萬人ノ救者ガ己ノ血ヲ以テ我等ニ予ヘタル自由ヲ

失フ可ラス依テ聖地公會定ムルコト左ノ如シ諸主教部  
 ハ古ヨリ慣例ニ由テ確定シテ最初ヨリ之ニ屬セシ權利  
 ハ壓虐ヲ受ケヌシテ完全ニ之ヲ保守ス可シ府主教ハ各  
 己ノ證ト爲スガ爲メ自由ニシテ此定規ノ寫ヲ取ルチ得  
 可シ若シ今議定セシ所ニ反スルノ定規ヲ示ス者アレバ  
 聖地公會之ヲ無効ノ者ト爲ス可キコト定ム



第三聖全地公會 パンフィリヤノ聖公會ニ其前府  
主教 エウスタフイノヲ報スルノ書

聖書ニ萬事議シテ行フ可シ(箴言三十一章四節但)希臘ノ譯本ニ由ルト云フニ  
由リ聖役ノ業ヲ受タル者ハ殊ニ凡ソ其行フ可キヲニ謹慎  
注意ヲ加ヘザル可ラス蓋シ斯ノ如ク己ノ生命ヲ送ラント  
欲スル者ハ安然ナル地位ニ居リ恰モ順風ニヨルガ如ク己  
ノ望ノ向フ所ニ從テ行カントス此言最モ眞ナルニ似タリ  
或ハ時トシテ辛艱忍フ可ラザルノ悲苦人智ニ切迫シ大ニ  
之ヲ錯乱シテ其當サニ行フベキヲ爲サバラシメ眞實宜  
シカラザル者ヲ以テ善益ノ者ト爲サシムルコアリ我等最

モ篤實ニシテ且最モ敬虔ナル主教 エウスタフイニ此ニ類  
スルガ如キヲ有ルヲ認メタリ彼レ教會ノ規則ニ由テ手撫  
セラレタル己ニ證明セラレタリ其言フ所ニ依ルニ彼レ  
或者ニ心ヲ亂サレ不圖ノ事件ニ遇ヒ而シテ甚々働ナキノ  
故ニ由リ其煩勞ト戦フニ由テ疲困シ其敵人ノ謗言ヲ迴避  
スル能ハスシテ圖ラザリキ其主教部ヨリノ辭表ヲ出シタ  
リト蓋シ彼レ一旦聖治ノ職務ヲ受ケタレバ心靈剛毅ニシ  
テ之ヲ保守シ恰モ勞苦ニ向テ成ゴイダツ嚴スルガ如クシ欣然トシ  
テ報賞ヲ約スルノ汗ヲ忍耐セザル可ラス然ルニ唯其汗慢  
怠惰ニ由ルニ非スシテ專ラ働ナキノ由ルト雖モ彼レ一旦



自ラ不注意ノ者タルヲ示セルニ由リ敬虔ナル卿等教會ヲ  
治理スルガ爲メ已ムヲ得ザルニヨリテ最モ篤實且最モ敬  
虔ニシテ我等ノ兄弟ナル同主教フエアドルヲ手撫セリ蓋シ  
教會ハ孤立ス可ラス救世主ノ群ニ司長ノ欠ク可ラザルヲ  
以テナリ然ルニ彼レ流涕シテ前ニ云フ所ノ最モ虔敬ナル  
主教フエアドルト都會若クハ教會ヲ相爭フニ非スシテ唯主  
教ノ尊敬ト其名稱ヲ保タシテ請ヘリ故ニ我等此老人ノ  
コト悲嘆シ彼レノ流涕ヲ以テ我等ノ流涕ト爲シ速ニ彼レ  
ハ法ニ依テ逐斥セラレタルカ若クハ彼レノ名譽ヲ害セン  
トスル者アリテ唯些少ノ錯行ノ爲メニ罪セラレタルヤチ

探知セシニ彼レ毫モ此ノ如キノ所爲ナク唯其主教部ヲ辭  
シタルヲ以テ特ニ其罪トセラレタルヲ知レリ故ニ我等亦  
敬虔ナル卿等ガ彼レノ代リニ當然ニシテ前ニ云フ所ノ最  
モ虔敬ナル主教フエアドルヲ立タルヲ非トセス然レモ亦甚  
ク此人ノ働ナキヲ誹謗ス可ラス殊ニ己ノ古郷ヲ去リ斯ク  
久シク父家ヲ離レ居タルノ老人ナレバ之ヲ憐愍セザル可  
ラス依テ我等正シク裁決議定セシテ左ノ如シ彼レハ無論  
主教ノ名稱、尊敬及ヒ親與ヲ有ス可シ唯手撫ヲ行ハス教會  
ヲ管有セズ擅ニ聖務ヲ行ハザル可シ然レモ或ハ招カレ或  
ハ兄弟及ヒ同主教タル者其好意トハリストスチ愛スルト



ニ由テ之ニ許ス<sup>ト</sup>有ル時ハ此限ニ非ス若シ卿等彼レノ  
ニツキ如今若シハ今後尙ホ寛大ナルノ議ヲ立ルアラハ則  
チ聖公會ノ嘉許スル所タル可シ

ハルキドンノ第四聖全地公會規則

第一條 諸聖父ノ各公會ニ於テ今ニ至ルマデ述ベタル規  
則ハ我等遵守ス可キ者ト公認セリ

第二條 若シ主教金銀ノ爲メニ手撫チ行ヒ不可賣ノ恩寵  
ヲ以テ賣物ト爲シ金銀ノ爲メニ主教或ハホレエヒス  
コ<sup>ト</sup>或ハ司祭或ハ輔祭或ハ其他凡ソ教衆ニ属スル者ヲ立  
テ又ハ金銀ノ爲メニ<sup>エ</sup>コノム<sup>ニ</sup>會計者<sup>ヲ</sup>或ハ<sup>エ</sup>ク<sup>ク</sup>ディク<sup>ク</sup>或ハ  
「<sup>パ</sup>ラ<sup>モ</sup>ナ<sup>リ</sup>イ<sup>」</sup>或ハ<sup>凡</sup>テ可惡ノ利慾ノ爲メニ<sup>コ</sup>或者チ教會  
ノ職ニ登庸シテ此事ヲ行ヒタルヲ罪セラレタル者ハ自  
己ノ職位ヲ褫奪セラル可シ而シテ彼等ニ立ラレタル者



ハ決シテ其買得タルノ手撫若クハ登庸ヲ用ユルヲ得ス  
 即チ金銀ヲ以テ得タル所ノ位若クハ職ヲ褫奪セラル可  
 シ又斯ク可惡且不法ナルノ利慾ニ紹介スル者アリテ認  
 メラレ其者若シ教衆ノ者ナレバ其位ヲ除黜セラル可シ  
 俗人若クハ修士ナレバ「アナフエマ」ニ附セラル可シ  
 \*「エクデイク」譯スレバ保護者ナリ其職ハ教會ノ事ニ由リ  
 テ官長ノ前及ヒ裁判ニ於テ窮人及ヒ不義ノ難ヲ蒙フ  
 リタル者ノ爲メニ代訴セシ者ナリ  
 \*「パラモナリイ」譯スレバ監守者ナリ其職ハ常ニ聖堂ヲ  
 離レズシテ之ヲ監守シ來拜者ノ便ヲ爲シ者ナリ今

之ヲ略シテ「ボノマリ」ト稱ス

第三條 聖公會ハ教衆ニ屬スル者ニシテ可惡貪欲ノ爲メ  
 ニ他人ノ財産ヲ預リテ俗事ヲ營ミ神ノ勤役ヲ顧ミズ俗  
 人ノ家ヲ匿遊シテ利慾ノ爲メニ財産ノ依托ヲ受クル者  
 アリト聞ク是故ニ聖大公會議定セシコト左ノ如シ以後主  
 教或ハ教徒或ハ修士ハ財産ヲ預リ俗事ノ管理ニ干與ス  
 可ラズ但シ法ニ由リテ幼年者ノ爲メニ免ル可ラザルノ  
 保管ヲ命ゼラレ若クハ都府ノ主教之ニ教會ノ事或ハ助  
 援ナキノ孤兒寡婦ノコト又ハ神ヲ恐ル、ノ心ヲ以テ特ニ  
 教會ノ扶助ヲ施ス可キ人ノコトニ照看ヲ任スル時ハ此限



ニ非ズ若シ以後敢テ此制定ヲ犯ス者アシバ教會ノ罰ニ服セラル可シ

第四條 誠心誠意ニ修道ノ過活ヲ爲ス者ハ相當ノ尊敬ヲ受ツ可シ然レモ唯外見ノ爲メニ修士ノ衣服ヲ用井テ教會及ヒ國家ノ事ヲ擾乱シ擅ニ市中ヲ徘徊シ或ハ甚シキハ自ラ己ノ爲ニ修道院ヲ設立セシテ企ル者アルニ由リ議定セシコト左ノ如シ凡ソ何人タリトモ都府主教ノ許可ヲ得ザレバ何處ニモ修道院若クハ祈禱室ヲ建造ス可ラズ各都府及ヒ各地ニ於テ修士タル者ハ主教ニ從屬シ世ヲ避ケタル所ヲ離レズシテ沈黙ヲ守リ唯持齋祈禱ヲ

勉メ教會及ヒ世俗ノ事ニ干涉ス可ラズ修道院ヲ去リテ此等ノ事ニ干與ス可ラズ唯都府ノ主教ニ已ムコトヲ得ザルノ事由アルニ由リテ許可セラル、時ハ此限ニ非ズ凡ソ僕ハ其主人ノ命許ナクンバ修道院ニ受ケテ修士ト爲ス可ラズ此ノ我等ノ制定ヲ破ル者ハ我等教會ノ親與ヲ絶ツテ神ノ名ヲ瀆ス可ラザルヲ定メタリ但シ都府ノ主教ハ宜ク修道院ノコトヲ慮ルベキナリ

第五條 一都府ヨリ他府ニ移轉スル主教或ハ教徒ニ關シテ諸聖父ノ制定セシ規則ハ其力ヲ有ス可キコトヲ議定セラレタリ



第六條 凡ソ司祭或ハ輔祭及ビ其他教會ノ職位ニハ被手撫者ノ任處即チ都府若クハ邑村ノ教會若クハ致命者ノ堂若クハ修道院ヲ任定セザレバ決シテ手撫ス可ラズ聖公會ハ確定ノ任處ナクシテ手撫セラレタル者ニ關シ議定セシテ左ノ如シ此ノ如キ舉立ハ無効ノ者ト爲シ何處ニ於テモ之ニ勤役ヲ爲スヲ許ス可ラズ以テ之ヲ立テタル者ヲ辱カシム可シ

第七條 嘗テ教衆或ハ修士ニ加ヘラレタル者ハ軍務或ハ官職ヲ受ク可ラズ若シ敢テ之ヲ爲セシ者悔心シテ前ニ神ノ爲メニ撰ビタルトニ反歸セザル時ハ我等「アナフェマ」

ニ附ス可キヲ議定セリ

第八條 救濟院修道院及ビ致命者ノ堂ニ在ル教徒等ハ諸聖父ノ傳ニ從ヒ各都府ノ主教ノ權下ニ屬シテ漫リニ己ノ主教ノ管下ヲ脫ス可ラズ凡ソ敢テ此制定ヲ破リ己ノ主教ニ從屬セザル者ハ若シ教徒ナレバ規則ニ循ヒ罰ニ服セラレ可シ修士若クハ俗人ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ

第九條 若シ教徒、教徒ニ對シテ訴訟ノ事件アレバ己ノ主教ヲ棄テ、世俗ノ裁判所ニ告訴ス可ラズ初メ己ノ主教ニ由リテ其事件ヲ裁判シ若クハ其主教ノ許可ニ由リ兩造ヨリ選バレタル者ハ裁判ヲ爲ス可シ之ニ違反シテ行



フ者ハ規則ニ循ヒ罰ニ服ス若シ教徒ハ己ノ主教或ハ他ノ主教ニ對シテ訴訟ノ事件アレバ州公會ニ於テ裁判ス可シ若シ主教或ハ教徒本州ノ府主教ニ對シテ不滿ノ事アレバ大州ノ「エグザルフ」若シハ皇都コノスタンティノポリノ寶座ニ告訴シ其前ニ於テ裁判ス可シ

第十條 教徒ハ同一時ニ二都府ノ教會即チ初メ手撫セラレタルノ教會ト虛榮ヲ欲シテ轉シタル大教會ニ屬スルヲ許サズ之ヲ爲ス者ハ初メ手撫セラレタル本教會ヨリ他教會ニ送還シ唯彼處ニ於テ勤メシム可シ又一教會ヨリ他教會ニ移轉セラレタル者ハ前ノ教會ニ屬スルモノ即チ該

教會ニ屬スル致命者ノ堂或ハ救濟院或ハ旅館等ニ毫モ干涉ス可ラズ此大全地公會ノ制定ノ後敢テ今禁制セラレタルコトヲ行フ者ハ聖公會其位ヲ黜シ可キヲ定メタリ

第十一條 凡ソ窮人ニシテ扶施ヲ要スル者ニハ其貧困ヲ探知シタル上教會ノ和親狀ヲ給シテ通行セシム可キヲ定メタリ但シ保任狀ヲ與フ可ラズ蓋シ保任狀ハ唯嫌疑アル者ニ與フ可キモノナリ

第十二條 我等聞ク所ニ依ルニ教會ノ規律ニ反シテ官權ニ依頼シ官府ノ令書ヲ以テ一州ヲ分割シテ二ト爲シ是ニ由テ一州ニ二人ノ府主教ヲ顯出スルコトアリト是故ニ



聖公會ハ以後主教ハ決シテ此ノ如キヲ行フ可ラザル  
 ナ定メタリ此事ヲ企ル者ハ其位ヲ除黜セラル可シ國王  
 ノ詔書ニ由リテ都會ノ稱ヲ得タル都府并ニ其教會ヲ治  
 理スル主教ハ唯名稱ヲ以テ満足シ真ノ都會ニ屬スル固  
 有ノ權利ヲ保全ス可シ

第十三條 他ノ都府ニ於テ知ル無キノ他教徒ハ其本主教  
 ノ保任狀ヲ有セザレバ決シテ何ノ處ニ於テモ勤役セシ  
 ム可ラズ

第十四條 或主教部ニ於テ誦經者及ヒ唱歌者ニ婚配ヲ爲  
 スヲ許スアリ依テ聖公會議定セシテ左ノ如シ凡ソ彼等

ニ異教ノ女ヲ娶ルヲ許ス可ラズ既ニ此ノ如キ婚配ニ由  
 リテ生レ曾テ異端者ニ由リテ領洗セシ子ハ之ヲ公教會  
 ノ親與ニ入ル可シ其未タ領洗セザル者ハ異端者ニ由リ  
 テ之ニ領洗セシム可ラズ異端者若クハイウテヤ人若ク  
 ハ異邦人ト婚配ヲ爲サシム可ラス但シ正教人ト配合ス  
 ル者正教ニ轉ズルヲ約スル時ハ此限ニ非ズ此聖公會ノ  
 制定ニ違背スル者ハ規則ニ循ヒ懲罰ニ服ス可シ

第十五條 女輔祭ハ四十歳以下ニ非ザル女ニシテ且詳細  
 試験ノ後ニ之ヲ立ツ可シ若シ手撫ヲ受ケ暫時勤務ヲ爲  
 シテ後テ婚配ヲ爲ス者アレバ神恩ヲ瀆ス者トシテ「ア」ナ



「フエマ」ニ附セラル可シ  
 第十六條 自ラ主神ニ献シタル處女及ヒ修士タル者ハ婚配ヲ爲スヲ許サズ若シ之ヲ行フ者アレバ教會ノ親與ヲ絶タル可シ但シ我等本地ノ主教ハ此ノ如キ者ニ慈憐ヲ施スノ全權ヲ有ス可キヲ定メタリ  
 第十七條 各主教部ニ於テ邑村或ハ郭外ニ在ルノ境區ハ變スルトナク其之ヲ管理スル主教ノ權下ニ從屬ス可シ三十年ノ間無論ニシテ其境區ヲ管轄治理セシ者ニハ殊ニ然リトス若シ三十年ヲ過キザルニ或ハ其境區ニ關シテ爭論起ル時自ラ凌辱セラレタリト爲ス者ハ州公會ノ

前ニ其事ヲ訴フルヲ許ス可シ若シ己ノ府主教ニ凌辱セラレタリト爲ス者ハ前ニ云ヒシ如ク大州ノ「エシザル」若シハ「コンスタンティノポリ」ノ寶坐ノ前ニ於テ裁判ス可シ若シ王ノ權ヲ以テ新タニ都府ヲ置カレタル者若シハ以後置カル、時ニ教會境區ノ分定ハ國家及ヒ土地ノ等順ニ從フ可シ  
 第十八條 惡謀ヲ爲シ若クハ兇黨ヲ企ルコトハ犯罪トシテ國法ニテモ全ク禁ゼラル然ラバ矧ヤ神ノ教會ニ於テハ之ヲ禁制シテ此ノ如キコトアラシムルヲ致ス可ラズ故ニ若シ教衆ノ者或ハ修士互ニ誓約ヲ爲シ若クハ兇黨ヲ企



テ若クハ主教或ハ其同役者ニ對シテ虛妄ヲ構ヒタルヲ  
露顯スル時ハ全ク其位ヲ除黜セララル可シ

第十九條 我等聞ク所ニ依ルニ諸州ニ於テ規則ヲ以テ制  
定セラレタル主教ノ公會ヲ爲サズ之ニ由テ教會ノ修理  
ス可キ數多ノ事件ヲ顧ミザルモノアリト是故ニ聖公會  
ハ諸聖父ノ規則ニ準據シテ議定セシテ左ノ如シ各州ニ  
於テ諸主教一年ニ二回都會ノ主教ノ定メタル所ニ集會  
シ凡ソ露顯スルコトヲ修理ス可シ若シ主教己ノ都府ニ在  
リ且健康ニシテ凡ソ緊要不可避ノ事業アルニ非ズシテ  
公會ニ來ラザル時ハ兄弟ノ愛ヲ以テ之ヲ禁戒ス可シ

第二十條 我等已ニ制定セシ如ク一教會ニ定メラレタル  
ノ教徒ハ他府ノ教會ニ轉スルヲ許サズ其初メ勤役ヲ命  
ゼラレタル教會ヲ以テ満足セザル可カラズ唯己ノ生國  
ヲ失ヒ不得已ニ由リテ他教會ニ轉セシ者ハ此限ニ非ズ  
若シ主教此制定ノ後他主教ニ屬スルノ教徒ヲ受クル時  
ハ我等受ケラレタル者并ニ受ケタル者モ其移轉セシ教  
徒ガ己ノ教會ニ歸還スルニ至ルマデ教會ノ親與ヲ絶タ  
ル可キ者ト裁定セリ

第二十一條 主教或ハ教徒ヲ訴フル教徒若クハ俗人ノ告  
訴ハ直ニ審査セズシテ受理ス可ラズ預メ彼等ノコトニ關



シテ公衆ノ意ヲ問フ可シ  
 第二十二條 既ニ古時ノ規則(使徒規則四十條)ニテモ禁ゼラレタル如ク教徒ハ己ノ主教ノ死後彼レニ属スル物品ヲ竊取スルヲ許サズ之ヲ爲ス者ハ其位ヲ除黜セラル、ノ危難ニ服セラル可シ  
 第二十三條 聖公會ハ教衆及ヒ修士タル者ニシテ己ノ主教ヨリ何ノ委托モ受ケズ甚シキハ教會ノ親與ヲ絶タレタル者皇都コンスタンティノールニ至リ久シク彼處ニ居住シテ紛擾ヲ生ジ教會ノ規順ヲ破リ甚シキハ人家ヲ擾乱スル者アリト聞ク依テ聖公會議定セシト左ノ如シ

第一コンスタンティノールノ至聖ナル教會ノ「エクディク」ヲ以テ之ニ皇都ヲ去ル可キヲ説諭シ若シ無恥ニシテ尙ホ此事ヲ行フ時ハ同ク「エクディク」ヲ以テ強テ皇都ヲ去ラシメ其本地ニ送還ス可シ  
 第二十四條 曾テ主教ノ免許ニ由リテ成聖セラレタル修道院ハ永久ニ修道院ト爲シ之ニ属スル財産ハ保存シテ以後之ヲ俗人ノ住家ト爲ス可ラズ之ヲ爲スヲ許ス者ハ規則ニ循ヒ罰ニ服ス可シ  
 第二十五條 我等聞ク所ニ依ルニ或府主教等ハ委任セラレタル教衆ノ「テ」掛慮セズシテ主教ノ舉立ヲ遷延スル



者アリト依テ聖公會議定セシテ左ノ如シ主教ノ舉立ハ  
 三ヶ月ノ間ニ行フ可シ但シ不得已ノ事由アルニ由リテ  
 其時期ヲ遷延スルハ此限ニ非ス之ヲ行ハザル者ハ教會  
 ノ懲罰ニ服ス而シテ孤立スル教會ノ入額ハ其「ニコノム」  
 全ク之ヲ保守ス可シ

第二十六條 我等聞ク所ニ依ルニ或教會ニ於テ主教ハ「エ  
 コノム」ニ依ラズシテ教會ノ所有物ヲ管理スル者アリト  
 依テ議定セシテ左ノ如シ凡ソ主教ヲ有スル教會ハ其教  
 會ノ教衆中ヨリ「ニコノム」ヲ任定シ之ヲシテ其主教ノ旨  
 ニ由リテ教會ノ所有物ヲ管理セシム可シ是ヲ以テ教會

管理上ノ證人ト爲シ且之ニ由テ教會ノ所有物ヲ浪費セ  
 ザ神品者ニ誹謗ヲ來サバ「ルガ爲メナリ」若シ之ヲ行ハザ  
 ル者アレバ聖規則ニ循テ處分セララル可シ

第二十七條 結親ノ爲メニ婦女ヲ掠奪スル者或ハ掠奪者  
 ニ協力シ若シハ之ヲ可認スル者ニツイテ聖公會議定セ  
 シテ左ノ如シ若シ教徒ナレバ其位ヲ除黜シ俗人ハ「アナ  
 フェマ」ニ附ス可シ

第二十八條 萬事諸聖父ノ定規ニ循ヒ并ニ今誦讀セラレ  
 タル虔敬ニシテ追念スベキ「フエオドシイ」ノ時皇都「コンス  
 タンティノポリ」即チ新「ロマ」ノ公會ニ集會セシ一百五十



人ノ最モ神ニ愛セラル、主教等ノ規則ヲ認定シテ我等  
 モ亦此コンスタンティノール即チ新ロマノ至聖ナル教  
 會ノ特典ヲ確定ス蓋シ諸父ガ舊ロマノ寶座ニ特典ヲ與  
 ヘタルハ其皇都タリシヲ以テ至當ナリトス一百五十八  
 ノ最モ神ニ愛セラル、主教等モ此趣意ニ準據シテ新ロ  
 マノ至聖ナル寶座ニ同等ノ特典ヲ與ヘ至當ニ議セシ  
 左ノ如シ國王及ヒ大議院ノ都府タルノ榮譽ヲ得舊都  
 マト同等ノ特典ヲ有スルノ都會ハ教會ノ事ニ於テモ之  
 ト同ク尊崇セラレ其次ニ位スベシ故ニ唯ボント、アシヤ  
 及ヒフラキヤ諸州ノ府主教并ニ此諸州ニ屬スル外邦人

ノ主教等ハ前ニ云フ所ノコンスタンティノールノ至聖  
 ナル教會ノ至聖寶座ニ由リテ立ラル可シ即チ此諸州ノ  
 府主教ハ聖規則ニテ制定セラレタル如ク州中ノ諸主教  
 ト相共ニ諸主教部ノ主教ヲ立ツ可シ而シテ此諸州ノ府  
 主教ハ慣例ニ從ヒ合同ノ選舉及ヒ其具申ニ由リ前ニ云  
 ヒシ如クコンスタンティノールノ大主教ニ由リテ立ラ  
 ル可シ

第二十九條 主教ヲ司祭ノ位ニ貶スルハ攘聖ノ罪ナリ若  
 シ當然ノ故アリテ主教ノ行務ヲ爲ス能ハザラシムル時  
 ハ司祭ノ位置ニモ居ル可ラズ若シ亦毫モ故ナクシテ己



ノ位ヲ黜ケラレタル者ハ主教ノ位ニ復セラル可シ  
 第三十條 今エギペトノ最モ虔敬ナル主教等公會ノ教  
 ニ反スルコト非ス唯エギペト州ニ行ハルハ慣例ニ由リテ  
 凡ソ大主教ノ允許裁定ニ由ラザレバ決シテ此ノ如キ  
 ナ行フ能ハズト爲シテ至聖ナル大主教レフノ書ニ署名  
 スルコトヲ遷延シ大都アレキサンドリヤノ主教ノ立ツニ  
 至ルマデ之ヲ延期センコトヲ請求ス依テ我等之ニ其位ヲ  
 有セシメテ皇都ニ止マリ大都アレキサンドリヤノ大主  
 教ノ立ツニ至ルマデ之ニ延期ヲ與フルヲ以テ公義且仁  
 慈ノ事ト認定セリ故ニ彼等己ノ位ニ在テ或ハ若シ能ス

ベシソハ保人ヲ立ツ可シ若クハ誓約ヲ爲シテ疑惑ヲ解  
 シ可シ



第五聖全地公會ノ事

コンスタンティノールニ設ケタル第五聖全地公會ニ集會  
 セシ諸聖父ハ特ニハルキドンノ第四全地公會ヲ確定スル  
 ニ止リテ教會ノ規順ニ關スル特別ノ規則ハ編成セズ第六  
 全地公會規則第二條ニ他ノ聖公會ノ規則ヲ指示シテ第五  
 全地公會ノ規則ヲ記セザルヲ以テ明ニ之ヲ知ル可シ

コンスタンティノールニ設ケタル王宮ニ設ケタル

第六聖全地公會ノ規則

第一條 神學者ノ言ニ由ルニ凡ソ言ヲ發シ事ヲ行フニハ  
 神ニ由リテ始メ神ヲ以テ終ルヲ最善ノ法ト爲ス故ニ今  
 虔敬ノ教既ニ明ニ傳宣セラレハリストス自ラ基礎タル  
 ノ教會息マズシテ蔓延隆盛シリソノ柏香木ヨリモ高  
 シナレル時ニ當リ聖言ヲ發スルニ臨ミ神恩ニ由リテ議  
 定スルト左ノ如シ神ニ選バレテ言ノ親見者及ヒ役者ト  
 爲リタル諸使徒及ヒ三百十八人ノ聖且福ナル諸父ヨリ  
 我等ニ傳ハリタル教ヲ新説ニ害セラレズ變易セズシテ



遵守ス可シ彼等(即チ三百十八人ノ諸聖父)ハ我等ノ皇帝  
 コンスタンティンノ時不虔ノアリイ及ヒ彼レノ臆出セシ  
 異邦ノ他神教若クハ正言スレバ即チ多神教ナル者ヲ辨  
 駁センガ爲メニケヤニ集會シ信認ノ同意ヲ以テ神ノ本  
 性ノ三位一體ナルヲ我等ニ開示闡明シ之ヲ不智ノ斗下  
 ニ秘スルヲ許サズ明ニ信者ニ父及ヒ子及ヒ聖神ヲ等シ  
 ク崇拜スルヲ教誨シ而シテ神性ノ位ノ不同ナルヲ唱ヘ  
 タル偽教ヲ辨駁闕除シテ異端者ガ正教ニ對シ沙磧ヲ以  
 テ造リタル兒戲ヲ破壊顛倒セリ又同ク我等ノ皇帝大フェ  
 オドシイノ時此皇都ニ集會セシ百五十八人ノ諸聖父ノ述

ヘタル信經ヲ遵奉シ其聖神ノ一ヲ教フルノ言ヲ受ケ而  
 シテ狂暴ニシテ主宰ヲ僕ト稱シ不敬ニシテ不可離ノ單  
 一ヲ分割シ以テ我等ノ倚望スル所ノ奧義ヲ完全ナラシメ  
 ザラントセシ不虔ノマケドニイナ前ノ眞理ノ敵ト共ニ  
 攘斥ス又此ノ厭惡スベク眞理ニ向テ暴亂セシ者ト共ニ  
 不虔ニシテ主ハ靈ト智ナクシテ人體ヲ受ケタリト吐キ  
 之ヲ以テ救贖ハ我等ノ爲メニ不完全ニ行ハレタリトノ  
 說ヲ生ゼシ邪說ノ先導者アボリナリイヲ罪定ス又同ク  
 アルカデイノ子我等ノ皇帝フェオドシイノ時始テエフェス  
 府ニ集會セシ二百人ノ捧神諸父ノ述ベタル教ヲ以テ虔



敬ノ破ル可ヲザル堅樂ト爲シ我等同意ヲ以テ之ヲ確定  
 シテ人體ヲ藉リタル惟一ノハリストス神ノ子ヲ宣傳シ  
 又種ナクシテ彼レヲ生ミタル無玷ノ永久童女ヲ實ニ生  
 神女ト信認シ而シテチストリイノ狂妄ナル分隔ノ説ハ  
 神ノ副業ヨリ除逐セラレタル者トシテ我等之ヲ擯斥ス  
 蓋シ彼レハ惟一ノハリストスハ特別ニ人ニシテ又特別  
 ニ神ナリト教ヘイウヂヤ人ノ邪説ヲ再興スルヲ以テナ  
 リ又同ク我等ノ皇帝マルキアンノ時州府ハルキドニ  
 集會セシ六百三十人ノ神ニ選バレタル諸父ノ編成セシ  
 教理ヲ正教ニ從テ確定ス此教理ハ大聲疾呼シテ地極ニ

至ルマデ惟一ノハリストス神ノ子ハ二性ヲ具有シ此二  
 性ニ於テ讚榮セラル、ヲ報シ而シテ救贖ノ大奧義ハ幻  
 像ヲ以テ行ハレタリト云ヒシ妄想者エウテイヒイヲ怪異  
 ノ者疾疫ノ如キ者トシテ聖教會ノ圍内ヨリ逐斥シ又之  
 ト共ニチストリイ及ヒディオスコルヲ逐斥セリ蓋シ其中  
 一ハ分離ノ一ハ混合ノ一ヲ廻護シ不虔ノ反對ノ方ヨ  
 リシテ滅亡及ヒ無神ノ同一ノ淵ニ陥リタル者ナリ又追  
 福スベキ我等ノ皇帝イウステイニアンノ時此皇都ニ集會セ  
 シ百六十五人ノ捧神諸父ガ聖神ニ由テ發セシ虔敬ノ  
 言ヲ熟知シ且我等ノ子孫ニ之ヲ教誨ス彼等ハチストリ



イノ師モアスエトノフエドル、オリケン、ディテム及ヒエウ  
 グリイ即チ彼ノエルリンノ怪説ヲ再興シテ再ビ迷罔ノ  
 智ノ夢想ヲ以テ身靈ノ輪廻變遷ノヲ我等ノ觀ニ供  
 テ不正不理ニ死者ノ復活ヲ駁斥シタル者及ヒフエドリ  
 下ガ正教ト聖キリールノ十二編ノ書ヲ論駁シタル者及  
 ヒイツノ書翰ト稱スル者ヲ公然阻絶シテ審斥セリ又近  
 時遐福スベキ我等ノ皇帝コンスタンティンノ時此皇都ニ  
 集會セシ第六公會ノ信認ハ虔敬ナル皇帝自ラ之ヲ保証  
 スルガ爲メ此ノ公會ノ定規ニ捺印シテ永久ニ認定セシ  
 チ以テ益勢力ヲ得タリ我等再ビ變易セズシテ遵守スル

ヲ誓約ス此信認ハ我等ノ救贖ノ爲メニ人體ヲ藉リタル  
 我等ノ惟一ノ主イ、ス、ハリストス眞神ハ二個本性ノ  
 志望若クハ二個本性ノ意旨及ヒ二個本性ノ行爲ヲ有ス  
 ルヲ信認スベキ所以ヲ解明シ而シテ正教ノ定理ヲ壞傷  
 シテ惟一ノ主我等ノ神イ、ス、ハリストスハ一個ノ意  
 旨及ヒ一個ノ行爲ヲ有スルヲ人々ニ傳ヘタル者ヲ虔  
 敬ノ審判ヲ以テ罪定セリ即チフランノ(主教)フエドルア  
 レキサンドリヤノキル、ロマノオノリイ此ノ神ニ救護セ  
 ラル、皇都ノ司長タリシセルギイ、ピル、パワエル、ベートル、  
 アンテオヒヤノ主教マカリイ其門弟ステファン及ヒ無智



ナルホリホロニイ等はナリ是ノ如クニシテ彼等ハハリ  
 ストス我等ノ神ノ全體ヲ傷害セズシテ守レリ約言スレ  
 バ我等凡ソ生命ノ言ヲ守リテ世ノ光ト爲リ神ノ教會ニ  
 於テ光榮ヲ得タル者ノ信認ヲ堅ク遵守シ之ヲ其神ノ旨  
 ニ由リテ書キタル書及ヒ定理ト共ニ世末ニ至ルマデ動  
 カサズシテ永存ス可キヲ定ム凡ソ彼等ガ徒ニ神ヲ誹謗  
 シ敢テ不義ヲ立テント欲セシ者ヲ真理ノ敵トシテ擯斥  
 シ且「アナフエマ」ニ附セシ者ハ我等モ悉ク擯斥シ且「アナフエ  
 マ」ニ附ス若シ凡ソ前ニ云フ所ノ虔敬ノ定理ヲ循守セズ  
 之ヲ承認セズ此ノ如ク思惟セズ宣傳セズシテ之ニ敵セ

ント試ムル者アレバ會テ前ニ述ベタル聖且福ナル諸父  
 ガ制定シタル定規ニ從テ「アナフエマ」ニ附セラレ「ハリステ  
 アユン」ノ社會ニ屬セザル者トシテ親與ヲ絶タレ除逐セ  
 ラル可シ蓋シ我等前ニ議定セラレタル者ニ準據シテ或  
 ハ増加シ或ハ減少ス可ラスト確然決定セリ且我等決シ  
 テ之ヲ爲ス能ハザリシ  
 第二條 此聖公會靈魂ヲ醫シ慾ヲ療スルガ爲ニ美ニシテ  
 且最モ注意スベキ者ト認定セシ者左ノ如シ以後會テ聖  
 且福ナル諸父ガ承認確定シテ我等ニ至ルマデ聖且讚榮  
 タル使徒ノ名ニテ傳ハリタル八十五條ノ規則ハ堅ク變



易セズシテ存守ス可シ此規則ニクリメントニ由リテ傳  
 ハリタル該聖使徒ノ規律ヲ受ク可キヲ命ゼラレタリト  
 雖モ異端者ハ曾テ教會ヲ害セシト欲シ此規律ニ詐偽ニ  
 シテ虔敬ニ反スルノ意ヲ附會シ神ノ教ノ美妙ナル意ヲ  
 闇マシタルニ由リ我等ハ「ハリスタアノン」タル牧衆ヲ教  
 誨防護スルガ爲ニ審査シテ此ノクリメントノ規律ヲ擯  
 斥シ決シテ異端者ノ偽教ノ生スルヲ許サズ且之ヲ純粹  
 完全ナル使徒ノ教ニ混セズ我等同意ヲ以テ他ノ凡ソ我  
 等ノ聖且福ナル諸父ガ述ベタル左ノ聖規則ヲモ認定ス  
 則チニケヤニ集會セシ三百十八人ノ捧神諸聖父、同クア

ンキル、チオケカリヤ及ヒガングル、其他シリヤノアンテ  
 オヒヤ、フリギヤノラオダイキヤニ集會セシ諸父并ニ此ノ  
 神ニ守護セラル、皇都ニ集會セシ百五十人ノ諸父及ヒ  
 始メテ州府エフェスニ集會セシ二百人ノ諸父及ヒハルキ  
 ドンニ集會セシ六百三十人ノ聖且福ナル諸父及ヒサル  
 ダイキヤ、カルフゲンニ集會セシ諸父并ニ此ノ皇都ノ司長  
 チクタリイ、アレキサンドリヤノ大主教フェオフィルノ時再  
 ビコノ神ニ救護セラル、皇都ニ集會セシ諸父ノ規則又  
 同ク大都アレキサンドリヤノ大主教ディオニシイ、アレキ  
 サンドリヤノ大主教ナル致命者ペートル、ネオケサリヤ



ノ主教ナル行奇跡者グリゴリイ、アレキサンドリヤノ大  
 主教アフナシイ、カバドキヤノケサリヤノ大主教ウシリイ、  
 ニッサノグリゴリイ、神學者グリゴリイ、イコニヤノアン  
 フローヒイアレキサンドリヤノ大主教第一デイモフェイ同  
 シコノ大都アレキサンドリヤノ大主教フェオフィル、アレキ  
 サンドリヤノ大主教キリール及ヒコノ神ニ救護セラカ  
 、皇都ノバトリカ教宗ゲナデーイノ規則并ニアフリカ地方ノ大  
 主教ナル致命者キプリアン及ヒ其時ノ公會ニ於テ議定  
 セラレタル規則等ナリ此規則ハ即チ唯前ニ記セシ地方  
 ノ司長等ガ各其舊慣ニ由リテ守リタルモノナリ何人タ

リトモ前ニ述ベタル諸規則ヲ變易シ若クハ廢棄シ若ク  
 ハ前述ノ規則ノ外敢テ眞理ヲ密賣スル者ノ作リテ假偽  
 ノ題号ヲ附シタル他ノ規則ヲ受クルヲ許サズ若シ前記  
 ノ規則ヲ變易シ若クハ傷害セントシテ罪定セラレタル  
 者ハ其規則ニ對シテ定メラレタルノ懲罰ヲ受ケ之ヲ以  
 テ其違犯セシ所ヲ療セラル可シ

第三條 虔敬ニシテハリストスヲ愛スル我等ノ皇帝ハ此  
 聖全地公會ニ勸ムルニ教衆ニ屬スル者及ビ凡ソ人々ニ  
 神ノ一ヲ施授スル者ハ眞潔無玷ノ役者ト爲リ自ラ献祭  
 及ヒ司祭長タル大ナル神ニ奧義ノ祭ヲ献スルニ堪フル



者ト爲リ其不法ノ婚配ニ由リテ附着シタルノ汚穢ヲ清  
ム可キヲ以テシ而シテ此事ニツイテロマノ至聖ナル教  
會ニ屬スル者ハ嚴重ノ規則ヲ守リコノ神ニ守護セラル  
ル皇都ノ寶座ニ屬スル者ハ仁慈寛容ノ規則ヲ守ル可キ  
ヲ勸メタルニ由リ我等愛心ヲ以テ且神ノ旨ニ應シテ彼  
是ヲ斟酌シ寛キ以テ温キ癢セズ酷キ以テ嚴ヲ棄テズ殊  
ニ其罪過ハ無知ニ由リテ數多ノ人ニ及ビタルコトナルニ  
由リ同意ヲ以テ議定スルコト左ノ如シ再婚ヲ爲シテ六千  
百九十九年ノ過ル第四「インディクト」去ル「イアンヌ」アリ月  
ノ十五日ニ至ルマデ尙ホ其罪ニ束縛セラレ之ヲ懊悔セ

ザリシ者ハ定規ニ循テ其位ヲ除黜セラル可シ又司祭或  
ハ輔祭ニシテ此再婚ノ罪ニ陥リタリト雖モ我等ノ此規  
則ヲ制定スル以前ニ善事ヲ識得シテ自ラ惡ヲ除去シ其  
不適當ニシテ且不法ナル配合ヲ絶ナシ者若クハ再婚ノ  
妻死亡セシ後悔改シテ再ビ廉潔ヲ守リ直ニ以前ノ不法  
ヲ避ケタル者ニ關シテハ左ノ如ク裁定セラレタリ此ノ  
如キ者ハ暫時定期ノ間懲罰ヲ受ケ凡テ神品ノ勤役若ク  
ハ行務ヲ停止シテ唯坐立ノ榮譽ヲ有シ上坐ヲ以テ満足  
シ主ノ前ニ涕哭シテ其無知ノ罪ヲ赦サレシテ求ム可  
シ蓋シ自ラ己ノ傷ヲ痊ヌ可キ者ハ他人ニ降福スルハ不



當ノ「ナル可シ又司祭或ハ輔祭或ハ副輔祭ニシテ一婦  
 ナ娶リタル者ト雖モ其娶リタル者寡婦ナル時若クハ手  
 撫セラレタル後一次婚配ヲ爲セシ者ハ暫時其聖務ヲ停  
 止シ懲罰ヲ科シテ後之ヲ高位ニ登崇スルヲ禁シ且公然  
 其不正ナルノ同居ヲ離斷セシメテ再ビ其本位ニ復ス可  
 シ但シ此規則ハ我等前ニ云ヒシ如ク第四「インディクト」ノ  
 「イアンヌアリ」月ノ十五日以前ニ於テ右ノ罪ヲ犯シタル神  
 品者ノ爲ニ設ケタリ自今我等左ノ規則ヲ確定再興ス即チ  
 領洗ノ後再婚ヲ爲シ若クハ妾ヲ置キタル者ハ主教或ハ  
 司祭或ハ輔祭ト爲ルヲ得ズ或ハ凡テ聖位ノ名簿ニ記セ

ラル、者ト爲ルヲ得ズ(使徒規則 十七條)又同ク寡婦若クハ離去  
 セラレタル婦若クハ淫婦若クハ婢若クハ女俳優ヲ娶リ  
 タル者ハ主教或ハ司祭或ハ輔祭ト爲ルヲ得ズ或ハ凡テ  
 聖位ノ名簿ニ記セララル、者ト爲ルヲ得ズ(使徒規則 十八條)  
 第四條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ副輔祭或ハ誦經  
 者或ハ唱歌者或ハ掌門者ハ神ニ獻セラレタル婦女ト姦  
 通スル時ハハリストスノ新婦ヲ辱メタル者トシテ其位  
 ナ除黜セラレ可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ  
 第五條 凡ソ神品ノ者ハ己ノ家ニ規則ニ示サレタル嫌疑  
 無キ者アラザル時ハ女人若クハ婢ヲ居ク可ラズコレ謗



言ヲ避クル爲メナリ若シ我等ノ制定セシモノヲ犯ス者  
アレバ除黜セラル可シ闇者モ亦預メ誹謗ヲ防クガ爲メ  
之ヲ守ル可シ若シ教衆ノ者之ヲ犯ス時ハ除黜セラル可  
シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

※ 是レ第一全地公會ノ等三條規則ヲ指スナリ

第六條 使徒規則ニ婚配セズシテ教衆ニ登庸セラレタル  
者ハ唯誦經者ト唱歌者ノミ婚配ヲ爲スヲ得可シ(使徒規  
條六)ト云フニ由リ我等モ之ヲ遵守シテ議定スルコト左ノ如  
シ以後副輔祭或ハ輔祭或ハ司祭ハ其手撫ヲ受ケシ後婚  
配スルヲ許サズ若シ之ヲ行フ者アレバ除黜セラル可シ

然レモ若シ教衆ニ加ハル者婚配ノ法ニ循テ妻ヲ娶ラシ  
ト欲スル時ハ其副輔祭或ハ輔祭或ハ司祭ニ手撫セラ  
ル、以前ニ之ヲ行フ可シ

第七條 我等或教會ニ於テ輔祭ハ教會ノ職務ヲ擔任スル  
ニ由リ無禮專横ヲ爲シテ司祭ノ上ニ坐スル者有リト聞  
ク依テ議定スルコト左ノ如シ假令輔祭ハ尊貴即チ教會ノ  
或職務ヲ有ストモ司祭ノ上坐ヲ占ム可ラズ但シ或事件  
ノ爲メ其教宗若クハ府主教ノ名代ヲ爲シテ他府ニ往ク  
時ハ此限ニ非ズ蓋シ此ノ如キ時ハ其坐位ヲ有スルニ由  
テ尊敬セラレシ若シ強暴無耻ニシテ敢テ之ヲ爲ス者ア



レハ其位ヲ貶セラレテ其教會ニ於テ受ケタル位ニ於テ  
 衆ノ末座タル可シ蓋シ福音記者聖ルカノ書ニ親シク我  
 等ノ主、神ヨリ勸メラレタル教ニ於テ我等ノ主ハ上坐ヲ  
 好ムヘカラザルヲ勸諭ス蓋シ彼レ請ハレタル者ニ左ノ  
 譬喩ヲ云ヘリ曰ク爾チ人ニ婚筵ニ請ハル、時首位ニ座  
 スル勿レ恐クハ爾ヨリ尊キ者請ハル、アリ爾ト彼レテ  
 請ヒシ者來リテ爾ニ語テ此人ニ座ヲ讓レト曰ハ、爾チ  
 羞テ末位ニ趨カザル可ラズ唯請ハル、時ハ往テ末位ニ  
 坐セ爾チ請ヒシ者來リテ爾ニ語テ友歟上座ニ進メト云  
 ハ、爾ハ爾ト同席スル者ノ前ニ榮有ルベシ蓋シ凡ソ自

ラ高フスル者ハ卑フセラレ自ラ卑フスル者ハ高フセ  
 ラレントス(七路加十四章自七節至十二節)ト其他ノ神品ノ位ニ在ル者ニ  
 關シテモ亦之ヲ遵守ス可シ蓋シ我等神品ノ位若クハ職  
 ハ世俗ニ關スルノ職務ヨリ最モ尊キヲ知ル※  
※即チ司祭ノ職ハ大ニエコノム「若クハエクディク」ノ職ヨリ  
 モ重要ナルモノナリ  
 第八條 我等萬事ニ於テ我等ノ諸聖父ガ制定セシ規則ヲ  
 遵守スルヲ欲シ各州ノ主教等ハ毎年其都會ノ主教ガ適  
 宜ト認メシ所ニ公會ヲ設ク可キヲ命スルノ規則(第四全  
 九條十)ヲ再興ス然レモ夷民ノ侵寇ニ由リ又ハ其他不圖



ノ妨礙アルニ由リテ教會ノ司長等ハ一年ニ二次公會ヲ爲スヲ得ザルコアルニ由リ左ノ如ク議定セラレタリ各州ニ於テ將來或ハ起ルベキ教會ノ事ノ爲ニ前ニ云フ所ノ諸主教ハ必ス一年ニ一回毎年ノ聖「パスハ」祭ト十月ノ終末ノ間ニ前ニ云ヒシ如ク都會ノ主教ノ選定シタル所ニ公會ヲ爲ス可シ而シテ主教己ノ都府ニ在リ且健康ニシテ凡ソ緊要不可避ノ業務有ルニ非ズシテ公會ニ來ラザル時ハ兄弟ノ愛ヲ以テ之ヲ禁戒ス可シ

第九條 凡ソ教徒タル者ハ酒店ヲ有スルヲ許サズ蓋シ教徒ハ酒店ニ入ルヲ許サレズンバ矧ンヤ此酒店ニ在リテ

他人ニ使役シ其己レニ不適當ナルコトヲ業トスルヲ禁ビラル、ハ勿論ナリ若シ此ノ如キコトヲ爲ス者アラハ或ハ禁止ス可シ或ハ除黜セラレ可シ

第十條 主教或ハ司祭或ハ輔祭ニシテ利息ヲ取り若シハ所謂百分ノ利ヲ取ル者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ除黜セラレ可シ

第十一條 凡ソ神品ニ屬スル者或ハ俗人ハ決シテイウデヤ人ノ與フル所ノ淡餅ヲ食シ或ハ彼等ト親交ヲ結ビ或ハ病ノ時ニ彼等ヲ招イテ其治療ヲ受ケ或ハ浴場ニ於テ彼等ト共ニ沐浴ス可ラズ若シ敢テ之ヲ爲ス者アノハ教徒



ハ除黜セラル可シ俗人ハ親與テ絶タル可シ

第十二條 我等アフリカ、リウヤ及ヒ其他諸所ニ於テ當所

ノ最モ神ニ愛セラル、司長等手撫テ受ケタル後モ己ノ

妻ト偕ニ住スルヲ止メズシテ他人ノ妨礙誘惑ト爲ル

者有リト聞ク我等萬事委任セラレタル教衆ノ裨益ヲ爲

サンヲ慮リ以後決シテ此ノ如キヲ爲ス可ラザルヲ

當然ト認メタリ我等之ヲ以テ使徒ノ規律ヲ廢シ若クハ

變ズルニ非ズシテ人々ノ救贖ト益其善ニ進ムヲ慮

ルガ爲メ且聖位ニ誹謗ヲ來サバ、ルガ爲メナリ蓋シ神ノ

使徒曰ク悉ク宜ク神ノ榮ノ爲メニシテ行フベシ或ハイ

ウデヤ人ニ或ハエルリン人ニ或ハ神ノ教會ニ礙ヲ施ス勿

レ我が凡事ニ於テ衆ヲ悅バシメ己ノ益ヲ求メズ乃チ衆

庶ノ益ヲ求メ其レヲシテ救ヲ得セシムルヲ致ス如クス

ベシ我レハリストスニ倣フ如ク爾曹當ニ我レニ倣フベ

シ(哥林多前書十章三十一、三十ト若シ之ヲ行テ認メラル

者アレバ除黜セラル可シ

※規則ニ司長ノ稱ハ主教ノ名稱ノ代リニ用ヘラル、ナ

第十三條 我等ロマ教會ニ於テハ凡ソ輔祭或ハ司祭ニ手

撫セララル可キ者ハ以後己ノ妻ト配偶ス可ラザルヲ約ス



ル一規則トシテ傳ハリタリト聞ク故ニ我等ハ使徒ノ良  
 制規順ノ古規則ニ循ヒ聖役者ノ法ニ從テ同室スルコトハ  
 以後モ之ヲ破ラズ決シテ其妻トノ配偶ヲ絶タズ適宜ナ  
 ル時ニ於テ其互相ノ交合ヲ爲スヲ禁ズ可ラザルヲ可ト  
 ス故ニ若シ副輔祭或ハ輔祭或ハ司祭ニ手撫セララル、ニ  
 堪フル者アレバ其合法ノ妻ト同室スルコトハ決シテ此ノ  
 如キノ品位ニ登庸スルノ妨碍ト爲ル可ラズ而シテ其立  
 ツル時彼レヨリ己ノ妻ト合法ノ配偶ヲ制禁スルノ約ヲ  
 要求ス可ラズ我等之ヲ以テ神自ラ立テ、其降臨セシ時  
 祝福セシ婚配ヲ辱ムルコトナキヲ致ス可シ蓋シ福音書ノ

言命シテ曰ク神ノ耦セシ所ノ者人之ヲ分ツ可ラズ馬太十

章六節又使徒教示シテ曰ク婚姻ト無玷ノ牀ヲ重ンズベシ

希伯來十三章四節又曰ク爾ヲ己ニ妻ニ繫レバ則チ釋ヲ求ムル勿

レ哥林多前書七ト又我等カルフアゲンニ集會セシ者ハ聖

役者ノ生行ノ清潔ヲ慮リテ聖機密ニ觸ル、ノ副輔祭并

ニ輔祭及ヒ司祭ハ其業務ノ時ハ己ノ妻ト同室スルヲ節

ス可キヲ議定セシヲ知ル此ノ如ク使徒ヨリ傳ハリテ古

時ヨリ遵守セシモノハ我等モ同ク物各其時有ルヲ知リ

殊ニ齋戒祈禱ノ時ヲ知リテ之ヲ遵守ス可シ蓋シ聖臺ニ

勤役スル者聖品ニ近ク時ハ萬事ニ於テ節制ヲ守リ正實



ニシテ神ヨリ願フ所ノ者ヲ得ルヲ致ス可シ若シ使徒ノ規則ニ反シテ神品ノ者即チ司祭或ハ輔祭或ハ副輔祭ヲシテ敢テ其合法ノ妻ト記偶交接ヲ絶タシムル者アレハ除黜セラル可シ又同ク若シ司祭或ハ輔祭虔敬ヲ辞トシテ己ノ妻ヲ逐フ時ハ聖務ヲ行フヲ禁ゼラル可シ又執拗シテ聽カザル時ハ除黜セラル可シ

第十四條 我等ノ聖ナル捧神諸父ノ規則ヲ遵守シテ三十歳ニ滿タザル者ヲ司祭ニ手撫ス可ラザルコト定ム假令最モ能ク其任ニ堪フル人タリトモ定規ノ年齢ニ至ルマデ延期ス可シ蓋シ主イ、ス、ハリストスハ三十歳ニ及

シテ領洗シ始メテ教誨セリ又同ク輔祭ニハ二十五歳、女輔祭ニハ四十歳ニ滿タザレハ立ラル可ラズ

第十五條 生年二十歳ニ滿タザル者ヲ副輔祭ニ立ッ可ラズ若シ定規ノ年齢ニ至ラズシテ凡ソ神品ノ位ニ立ラレタル者ハ除黜セラル可シ

第十六條 使徒行實ノ書ニ使徒等輔祭七人ヲ立タルコトノ傳アルニ因リチオケサリヤ公會ノ諸父ハ其制定セシ規則ニ於テ明カニ假令甚々大ナル都府タリトモ規則ニ循テ唯七人ノ輔祭ヲ立テザルベカラズト議定シ行實ノ書ヲ以テ之ヲ證セリ依テ我等使徒ノ言ト諸父ノ説ヲ照



較シテ考フルニ此書ニ言フ所ハ機密ヲ勤ムル者ヲ云フ  
 ニ非ズシテ飲食ノ事ニ務ムル者ヲ云フヲ認メタリ蓋シ  
 行篤ノ書ニ書スルコト左ノ如シ曰ク當時門徒多ク加ハリ  
 エルリン人日々ノ施濟其養ニ及バザルヲ以テエウレイ  
 人ヲ怨ミタリ時ニ十二使徒衆門徒ヲ招テ曰ク我儕神ノ  
 道ヲ棄テ、凡席ヲ司ルハ宜ジキ所ニ非ザルナリ故ニ兄  
 弟乎爾曹ノ中ヨリ聖神ニ滿チ智慧ヲ具ヘタル善證有ル  
 者七人ヲ擇テベシ我儕之ヲ立テ、此事ヲ司ラシメ我儕  
 ハ則チ恒ニ祈禱傳道ノコトヲ務メシト此言衆ニ悅ハレ篤  
 信ニシテ聖神ニ滿ル者ステファン及ヒフィリップ、プロホル、

カノル、ティモン、バルツン及ヒアシテオヒヤン人ニヨライ  
 ヲ選ビ之ヲ使徒ノ前ニ立タリ(一)行實至六章自教會ノ師金  
 口イチアシ之ヲ解釋シテ曰ク此ノ人々ヲ選舉スル時民  
 ノ相分爭セズ使徒等ノ擯斥セラレザリシハ實ニ驚クニ  
 堪ヘタリ然レヒコノ人々ハ如何ナル位ヲ有セシヤ如何  
 ナル手撫ヲ受ケシヤヲ知ラザル可ラズ輔祭ノ位ニ立ラ  
 レシヤ此位ハ未ダ教會ニアラザリシ司祭ノ職ニ立ラレ  
 シヤ當時未ダ主教ナル者ナク唯獨リ使徒アリシコト故  
 ニ余、以爲ク當時輔祭及ヒ司祭ノ名稱ハ未ダ人ノ知ラザ  
 ル所ニシテ且用ヒラレザリシナリト我等モ此説ニ基テ



前ニ云フ所ノ七人ノ輔祭ハコノ解明ノ如ク機密ヲ勤ムル者ト爲サズシテ當時集會セシ者ノ爲ニ諸事ノ管理ヲ依托セラレタル者ト爲サバ爾可ラズト宣傳ス彼等ハ此事ニ於テ仁慈ヲ爲シ貧窮ヲ慮ル我等ノ龜鑑トナレリ

第十七條 諸教會ノ教徒己ノ立ラレタル教會ヲ去リテ他ノ主教ニ轉ジ己ノ主教ノ意ニ由ラズシテ他ノ教會ニ任定セラレ以テ不順ノ事ヲ爲スニ由リ議定スルコト左ノ如シ去ル第四「インディクト」ノ「イアンヌアリ」月ヨリ凡ソ教徒ハ何ノ位ニ有ル者タリトモ己ノ主教ノ免狀ヲ有セザレバ他教會ニ任定セラレ、ノ權利無キ者トス以後コレヲ

遵守セズシテ己レヲ手撫セシ者ヲ辱カシムル者ハ自分并ニ不正ニシテ之ヲ立タル者モ除黜セラレ可シ

第十八條 夷民ノ侵攻ニ由リ若クハ其他ノ事情有ルニ由リテ己ノ任處ヲ去リタル教徒ハ其移轉ノ原因タリシ事情若クハ夷民ノ侵攻止ミタル時ハ再ビ己ノ教會ニ歸リ故ナクシテ久シク其教會ヲ棄ツ可ラザルヲ命ズ若シ此規則ニ從ハズシテ歸還セザル者ハ其教會ニ歸還スルニ至ルマデ親與ヲ絶タル可シ之ヲ抑留セシ主教モコレト同罰ニ服セラレ可シ

第十九條 教會ノ司長ハ日々殊ニ日曜日ニハ聖書ヨリ眞



理ノ論說ヲ擇出シ、捧神諸父ノ定メタル區域ト傳トテ破  
 ズシテ全教衆及ビ民ヲ敬虔ノ道ニ教誨セザル可ラズ  
 若シ聖書ノ言ヲ講究スル時ハ教會ノ光タリ及ビ師タル  
 者ガ其言ニ述ベタルガ如ク之ヲ解明シ自ラ言ヲ造ラズ  
 筆口之ヲ以テ満足スベシコレ自ラ解明スルノ力足ラズ  
 シテ正理ニ背カザランガ爲メナリ蓋シ人々ハ彼ノ諸父  
 ノ教ニ由テ善ニシテ擇ブ可キコト無益ニシテ忌ム可キ  
 コトヲ識別シテ益々己レノ生行ヲ善ニ進メ無知ノ病ニ苦  
 マズ乃チ教理ヲ聽テ自ラ惡ヲ去ルヲ勵ミ嚴罰ヲ恐ル、  
 ニ由テ己ノ救贖ヲ營ムベケレバナリ

第二十條 主教ハ己レニ屬セザル他府ニ於テ公然教誨ス  
 ルヲ許サズ若シ之ヲ爲シテ認メラル、者アレバ主教ノ  
 職ヲ停止シテ司祭ノ事務ヲ行フ可シ

第二十一條 規則ニ反スル罪ヲ犯シテ全ク永久ニ其位ヲ  
 除黜セラレ俗人ノ列ニ貶セラレタル者若シ誠心悔悟シ  
 恩寵ヲ失ハシメタル罪ヲ斥ケテ全ク之レヨリ避クル時  
 ハ教衆ノ風ニ由テ削髮セラル可シ若シ自ラ之ヲ望マザ  
 ル者ハ世俗ノ事ヲ重シシ在天ノ生命ヲ輕スル者トシテ  
 俗人ノ如ク頭髮ヲ長ス可シ

第二十二條 主教或ハ凡ソ教衆ノ位ニ其生行ノ試験選擇



ニ由ラズシテ金銀ノ爲メニ立ラレタル者ハ除黜ス可キ  
ヲ命ズ之ヲ立タル者モ同ク除黜セラル可シ

第二十三條 主教或ハ司祭或ハ輔祭ハ聖體機密ヲ授ケテ  
コノ領聖ノ爲メニ領聖者ヨリ金銀若クハ其他ノ物ヲ要  
求ス可ラズ蓋シ恩寵ハ賣ルベキ者ニ非ズ我等ハ金銀ノ  
爲メニ聖神ノ聖恩ヲ賜授セズ宜ク欺騙セズシテ此恩賜  
ヲ受クルニ堪フル者ニ賜授セザル可ラズ若シ教衆ニ属  
スル者聖體機密ヲ受クル者ヨリ其報ヲ責求シテ認メラ  
ル、時ハシモンノ迷謬及ヒ其姦譎ニ倣フ者トシテ除黜  
セラル可シ

第二十四條 神品ニ属スル者或ハ修士タル者ハ競馬場ニ  
往キ或ハ猥褻ナル舞戲ヲ觀ルヲ許サズ若シ教衆ノ者婚  
筵ニ招カレタル時人心ヲ迷ハスノ舞戲始マル時ハ起テ  
直ニ避ク可シ蓋シ諸父ノ教我等ニ命スルコト亦此ノ如シ  
コノ事ニ罪セラレタル者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ除黜セ  
ラル可シ

第二十五條 他ノ諸規則ト共ニ左ノ規則（第四全地公會）ヲ  
モ再興ス即チ其命スルコト左ノ如シ各教會ニ於テ邑村或  
ハ郭外ニ在ルノ境區ハ變スルコトナク其之ヲ管理スル主  
教ノ權下ニ從屬ス可シ三十年ノ間無論ニシテ其境區ヲ



管轄治理セシ者ニハ殊ニ然リトス若シ三十年ヲ過キザルニ或ハ其境區ニ關シテ爭論起ル時自ラ凌辱セラレタルト爲ス者ハ州公會ノ前ニ其事ヲ訴フルヲ許ス可シ

第二十六條 無知ニ由テ不正ノ婚配ヲ爲シタル司祭ハ聖

規則（子オケサリヤ公）ニ制定セラレタル如ク司祭ノ席ニ

座シテ其他ノ司祭ノ業務ヲ停止ス可シ蓋シ此ノ如キ者ヲ寬恕スルコトハ已ニ充分ナリ自ラ己ノ傷失ヲ痊ス可キ者ハ他人ニ降福スルハ當然ニ非ズ蓋シ降福ハ聖恩ヲ賜授スルモノナレバ無知ノ罪ニ由リテ之ヲ有セザル者ハ如何シテ他人ニ賜授スルヲ得可キヤ故ニ公然或ハ私カ

ニ降福シ或ハ他人ニ主ノ體ヲ授ク可ラズ及ヒ其他ノ業務ヲ行フ可ラズ唯聖役者ノ席ニ座シ流涕シテ主ニ其無知ノ罪ヲ赦宥センコトヲ請フ可シ且此ノ如キ不正ノ婚配ハ破壊シ而シテ夫ハ決シテ其婦ト同居ス可ラザルハ固ヨリ明カナリ蓋シ婦ニ因テ聖役ヲ剝奪セラレタレバナナリ

第二十七條 凡ソ教衆ニ屬スル者ハ府内ニ居リ或ハ道路ニ在ルコト拘ハラズ不適當ノ服ヲ服ス可ラズ凡ソ彼等ハ教衆ニ在ル者ノ爲ニ定メラレタルノ服ヲ着用ス可シ若シ之ニ違フ者アレバ一週間聖務ヲ行フヲ禁ゼラル可シ

第二十八條 我等諸教會ニ於テ漸ク勢力ヲ得シトスル所



ノ風習ニ因テ聖臺ニ葡萄ヲ献納シ聖役者之ヲ奉獻ノ無  
 血祭ト合シテ共ニ之ヲ民ニ配與スト聞ク依テ緊要ト認  
 ムルコ左ノ如シ以後聖役者ハ之ヲ行フ可ラズ唯民ニ生  
 活及ヒ赦罪ヲ與フルガ爲メニ奉獻ノミテ賜授ス可シ葡  
 萄ヲ献納スル時ハ司祭ハ初實トシテ之ヲ受ケ別ニ之ヲ  
 降福シテ請フ者ニ與ヘ以テ神ノ命ニ由リ我等ノ休ヲ生  
 育スル所ノ果實ヲ賜フ者ヲ感謝ス可シ若シ教衆ノ者命  
 スル所ニ反シテ行フ時ハ其位ヲ除黜セラル可シ

第二十九條 カルラゲン公會諸父ノ規則ニ聖臺ノ聖務（聖體）  
 禮儀（テ）ハ一年ニ主ノ晩餐ノ行ハル、日ヲ除クノ外ハ食

セザル人ニ非ラザレバ之ヲ執行ス可ラザルヲ命ズ（カルラゲン）  
 四十八條規則按スルニ此諸聖父ハ教會ノ爲メニ有益ナル  
 當地ノ或事情ニ由リテ此ノ如キノ制ヲ設ケタル可シ然  
 レモ今毫モ我等ノ嚴正ヲ妨グルモノナキニ由リ我等ハ  
 使徒及ヒ諸父ノ傳ニ循ヒ四旬齋期ノ最後週日ノ木曜日  
 ニ禁食ヲ釋キ之ヲ以テ全四旬齋期ヲ辱カシム可ラスト  
 議定ス

第三十條 我等萬事教會ヲ整理スルガ爲メニセント欲シ  
 外邦教會ニ在ル司祭ヲモ治理ス可キヲ定メタリ故ニ若  
 シ彼等虔敬ヲ辭トシテ己ノ妻ヲ逐フ、（一）ヲ禁スル使徒ノ



規則(第五)ヲ超過シテ此制規ニ命ゼザルコトヲ行フヲ至當  
 ノコト爲シ己ノ妻ト相約シテ互ニ交接ヲ爲サレバ以  
 後如何ナル事由ヲ以テモ其妻ト同居ヲ爲サズ之ヲ以テ  
 我等ニ己ノ約ノ確證ヲ顯ハス可シト議定ス我等之ヲ寬  
 容スルハ唯彼等ノ少量ナルト其俗ノ空疏ニシテ未タ善  
 ク整ハザルニ由ルナリ

第三十一條 聖役者人家ニ在ル祈禱室ニ於テ聖務ヲ行ヒ  
 若クハ洗禮ヲ施サントスル時ハ其本地主教ノ許可ヲ得  
 ザレバ之ヲ行フ可ラザルコト議定ス故ニ若シ教衆タル  
 者此ノ如クニ之ヲ遵守セザル時ハ除黜セラル可シ

第三十二條 我等聞ク所ニ依ルニアルメニヤ地方ニ於テ

無血祭ヲ行フ者ハ聖臺ニ唯葡萄酒ヲ献シ之ヲ水ト混和  
 セズシテ教會ノ師金口イチャンガマトフェイノ福音書ヲ講  
 明スルノ言ヲ以テ己ノ説ノ正シキヲ證セントスト蓋シ  
 其言ニ曰ク復活セシ主ハ水ヲ飲マズシテ葡萄酒ヲ用井  
 タルハ全ク或不虔ノ異端ヲ剪除センガ爲メナリ蓋シ機  
 密ニ水ヲ用ユル者アルヲ以テ主ハ機密ヲ授クル時モ又  
 復活ノ後機密ヲ行ハズシテ平常ノ飲食ヲ勸メシ時モ葡  
 萄酒ヲ用ヒタルコト示サン爲メ葡萄樹ノ産スル所ノ者  
 云々(馬太二十六)ト云ヘリ葡萄樹ハ葡萄酒ヲ生シテ水ヲ



出サ、ルナリト此言ニ由リテ彼等恰モ此師ハ聖獻祭ニ  
 水ヲ混和スルヲ擯斥スルガ如ク思考ス故ニ以後此ノ  
 如キ者ノ無知ニ束縛セラレザラシガ爲メ我等茲ニ此父ノ  
 眞意ヲ解明ス昔時イドロパラスト乃チ水ヲ獻スル者  
 ノ邪惡ナル異端アリテ其獻祭スル時葡萄酒ヲ用ヒズシ  
 テ唯水ヲ用ヒシニ由リ此捧神者ハ此ノ如キ異端ノ不法  
 ナル教ヲ辨駁シ彼等現然使徒ノ傳ニ反スルヲ示サント  
 シテ前ニ云フ所ノ言ヲ引用セリ蓋シ彼レハ己レ牧師ノ  
 統治ヲ委任セラレタル教會ニモ無血祭ヲ行フ時ハ葡萄  
 酒ニ水ヲ混和ス可キヲ傳ヘ我等ノ贖者タル救主ハリス

トス神ガ全世ヲ生活シ罪ヲ贖フガ爲メニ其至潔ナル脇  
 ヨリ血ト水ト合シテ流レ出タルヲ以テ之ヲ證セリ凡  
 ソ神光ノ輝キタル諸教會ニ於テハ此ノ神立ノ規順ヲ遵  
 守ス我等ノ神ハリストスノ骨肉ノ兄弟イヤコフ即チ始  
 メテイエエルサリム教會ノ寶座ヲ托セラレタル者及ビ全  
 世ニ光榮ヲ輝カシタルケサリヤ教會ノ大主教ワシリイ  
 ハ書ヲ以テ我等ニ奧妙ナル聖務ヲ行フ可キヲ傳ヘ聖體  
 機密ヲ行フ時水ト葡萄酒トヲ合シテ聖爵ヲ成ス可キヲ  
 定メタリ又カルフランゲンニ集會セシ成德ナル諸父ハ宛モ  
 左ノ如ク言ヘリ曰ク聖機密ニハ主自ラ傳ヘタル如ク主



ノ體血即チ麵包ト水ヲ和シタル葡萄酒ノ外他物ヲ献ス  
可ラズト若シ主教或ハ司祭使徒ヨリ傳リタル規順ニ由  
ラズ水ト葡萄酒トヲ混和セズシテ至潔ノ献祭ヲ献ズル  
時ハ不完全ニ機密ヲ行ヒ新式ヲ以テ舊例ヲ破ル者トシ  
テ除黜セラル可シ

第三十三條 我等アルメニヤ地方ニ於テハ唯神品ノ種族  
ヨリ出タル者ヲ教衆ニ採用スト聞ク此ノ如ク行ハント  
ナ企ツル者ハ即チイウデヤノ風習ニ循フモノナリ又聖  
役者タルノ削髮ヲモ受ケズシテ聖堂ノ唱歌者及ビ誦經  
者ニ立テラル、者アリト聞ク故ニ議定スル可左ノ如シ

以後教衆ニ登庸セント欲スル者ハ先ツ其登庸セラル、  
者ノ種族ヲ審査スルヲ許サズ唯彼等ハ聖規則ニ掲ゲラ  
レタル定規ニ適合シテ教衆ト爲ルニ堪フ可キヤ否ヤヲ  
試験シテ其叙聖セラレシ祖先ヨリ出タルト否トニ拘ハ  
ラズ之ヲ教會ノ聖役者ニ登庸ス可シ又同ク削髮ヲ受ケ  
規則ニ應シテ己ノ牧師ヨリ降福ヲ受ケタル者ニ非ラザ  
レハ何人タリトモ教衆ニ加ヘラレタルノ順序ニ從テ講  
臺ヨリ民ニ神言ヲ述ブルヲ許サズ若シ此定規ニ反シテ  
行フ者認メラル、時ハ除黜セラル可シ

第三十四條 聖規則(第四全地公會)ニ明ニ惡謀ヲ爲シ若ク



ハ兇黨ヲ企ルノ罪ハ國法ニテモ全ク禁セラル然ラハ矧  
 ヤ神ノ教會ニ於テハ之ヲ禁制シテ此ノ如キト有ラシム  
 可ラズト云フニ由リ我等モ之ヲ遵守スルヲ勉ム可シ若  
 シ教徒或ハ修士タル者惡謀若クハ兇黨ニ加ハリ若クハ  
 主教或ハ同役ノ教徒ニ對シテ虛妄ヲ搆ヒタルト認メラ  
 ルハ時ハ全ク其位ヲ除黜セラル可シ

第三十五條 凡ソ府主教ハ其寶座ニ從屬スル主教ノ死後  
 彼レ或ハ彼レノ教會ノ財産ヲ奪ヒ若クハ私有ト爲ヌヲ  
 許サズ其財産ハ後任主教ノ立ツニ至ルマデ逝去者が司  
 長タリシ教會ノ教衆ノ管守ニ附ス可シ但シ其教會ニ教

衆ナキ時ハ此限ニ非ズ其時ハ府主教全ク之ヲ管守シテ  
 後ニ立ラレタル主教ニ悉ク與フ可シ

第三十六條 此ノ神ニ守護セラル、皇都ニ集會セシ一百  
 五十人（第二全地公會規則三條）及ビハルキドンニ集會セシ六百三  
 十人（第四全地公會規則二十八條）ノ諸聖父ノ定規ヲ再興シテ議定スル  
 ト左ノ如シコンスタンティノールノ寶座ハ舊羅馬ノ寶  
 座ト同等ノ特典ヲ有シ教會ノ事ニ於テ其次ニ位シテ尊  
 崇セラル可シ其次ハ大都アレキサンドロリヤノ寶座其次  
 ハアンティオヒヤノ寶座其次ハイエルサリム城ノ寶座タ  
 ル可シ



第三十七條 數夷民ノ侵寇アリテ數多ノ都府暴民ニ征服セラレタルニ由リ此都府ノ司長其ノ手撫ヲ受ケタル後己ノ寶座ヲ受ケ聖治理者ノ職ニ固定スルヲ能ハズシテ其傳來セシ風習ニ由リテ手撫及ビ凡テ主教ノ爲スベキヲ行フヲ能ハザル者アリ依テ我等神品ノ名譽及ビ尊敬ヲ守護シ異教人ノ壓虐ハ決シテ教會ノ權利ヲ害セザランヲ欲シテ制定セシテ左ノ如シ此ノ如クニシテ手撫セラレ前述ノ事故ニ由テ己ノ寶座ニ就カザル者ハ之ガ爲ニ非議セラル可ラズ故ニ規則ニ循テ各位教衆ノ手撫ヲ行ヒ己ノ疆域ニ準シテ教座ノ特典ヲ有シ凡ソ其施

行スル所ノ治理ノ行爲ハ確實合法ノ者ト公認セラル可シ蓋シ時ノ不便ト制規ヲ遵守スルノ故障アルニ由テ管理ノ疆界ヲ減少セラル可ラズ

第三十八條 我等諸聖父ノ制定セシ左ノ規則ヲモ遵守スルヨク若シ王ノ權ヲ以テ新クニ都府ヲ置カレタル者若クハ以後置カル、時ハ教會事務ノ分定モ國家及ヒ土地ノ區分ニ從フ可シ(規則十七條)

第三十九條 我等ノ兄弟及ヒ同勞者タルキプル鳴ノ司長イチアシハ夷民侵寇ノ故ニ由リ異邦ノ羈厄ヲ脱シテハリ

ズトテ教ヲ奉スル皇帝ノ權下ニ忠順セント欲シ其民ト



共ニ仁慈ナル神ノ深慮トハリストスヲ愛スル我等ノ虔敬ナル皇帝ノ保護ニ由テ此嶋ヨリゲルノスボント州ニ轉移セシニ由リ我等制定セシト左ノ如シ會テユニスニ集會セシ捧神諸父ガ前ニ云フ所ノ人ノ寶座ニ與ヘタルノ特典ハ變易セズシテ保存シ新イウスティニアノトポリハ  
 コンスタンティノトポリノ權利ヲ有シ其中ニ立テラレタル最モ神ニ愛セラル、ノ主教ハゲルレスボント州ノ諸主教ヲ統轄シ舊慣ニ循ヒ己ノ主教等ニ由テ立ラル可シ蓋シ我等ノ捧神諸父議セシト左ノ如シ各教會ノ慣習ヲ遵守シキシク府ノ主教モコノ最モ神ニ愛セラル、ノ司

長イチアアンニ從属スル他ノ諸主教ノ例ニ循テ前ニ云フ所ノイウスティニアノトポリノ司長ニ從属ス可シ而シテ若シ要スル時ハキシク府ノ主教モ其司長ニ由テ立ラル可シ

第四十條 世俗ノ繁忙ヲ斷絶シテ神ニ親近スルハ最モ嘉ニス可キトナルニ由リ我等ハ修道ノ過活ヲ擇フ者ヲ試驗セズシテ不時ニ受ク可ラズ之ニ關シテ諸父ヨリ我等ニ傳ハリタル制規ヲ守ル可シ故ニ智識ノ充分開發ノ後堅固ニシテ且明悟ト識量ヨリ生スル神ノ爲メニ過活セント欲スルノ誓約ヲ取ラザル可ラズ是故ニ修道ノ軌ヲ受



ケント欲スル者ハ十歳以上ノ者タル可シ然レモ首長タル者ハ其修道ノ過活ニ入り之ニ確定スルノ前尙ホ其時ヲ遅緩スルハ益ナルヤ否ヲ審査スルノ權ヲ有ス蓋シ大ウシリイハ其聖規則ニ甘心隨意ニ己ヲ神ニ献ジテ童貞ヲ擇ブ者ハ十七歳ヲ過タル後童貞ノ列ニ加フ可キヲ定メタリト雖モ我等寡婦及ヒ女輔祭ニ關スル規則ノ例ニ循ヒ之ニ適應シテ修道ノ過活ヲ擇ブ者ノ爲メニ前言ノ年數ヲ定メタリ蓋シ聖使徒ハ教會ニ寡婦ヲ加入スルニハ六十歳ナルベキヲ命ゼシ(提摩太前書)ニ聖規則ハ四十歳ニ至レバ女輔祭ニ立ツ可キヲ定メタリ是レ教會ハ神

ノ恩寵ニ由リテ強盛ニナリ信者ハ神ノ誠命ヲ守ルニ熱切ニナリシニ由ルナリ我等全ク之ヲ瞭解シ之ニ適準シテ議定セシト左ノ如シ神ノ爲メニ苦行ヲ爲サント欲スル者アレバ直ニ恩寵ノ降福ヲ以テ印記トシテ之ニ銘シ之ヲ以テ永ク躊躇セシメズ其心ヲ誘動セラレズ之ヲ獎勵シテ益善事ヲ擇ビ之ニ確定スルヲ得セシム可シ

第四十一條 都府若クハ邑村ニ於テ遁世閑居シ閑所ニ在テ己ヲ修メント欲スル者ハ先ツ修道院ニ入りテ隱遁ノ業ヲ學ビ三年ノ間神ヲ畏ル、ノ心ヲ以テ修道院ノ首長ニ寵從シ万事ニ於テ之ニ聽從シテ己レ此ノ如キノ過活



ヲ爲サント欲スルノ意ヲ顯ハシ本地ノ院長ニ由テ甘心  
 隨意眞ニ之ヲ爲サント欲スルヤヲ試驗セラル可シ且益  
 明カニ其志望ヲ顯ハスガ爲メ其後尙ホ又一年ノ間閉居  
 セズノ忍耐ス可シ蓋シ其時彼等ハ虛榮ヲ得ルガ爲メニ  
 非ズ眞誠ノ幸福ヲ求ムルガ爲メニ此靜默ヲ爲サント欲  
 スルノ確證ヲ示スナリ此時期ノ過キタル後尙ホ其志望  
 ヲ懷シ時ハ乃チ閉居セシム可シ但シ其後ハ己ニ彼等ノ  
 隨意ニ其住所ヲ出ツルヲ許サズ唯公衆ノ爲メノ勤メ若  
 シハ公益ヲ爲スガ爲メ若シハ其他生命ノ危キニ關スル  
 ガ如キ已ムヲ得ザルノ事アレバ本地主教ノ降福ヲ得テ

出ツルヲ得可シ前件ノ理由ナクシテ敢テ其住所ヲ去ラ  
 ントスル者アラバ先ツ強イテ之ヲ其閉居セシ所ニ閉錮  
 シ次ニ禁食及ヒ其他ノ嚴則ヲ以テ之ヲ悛改セシム可シ  
 蓋シ我等聖書ノ言ニ由テ手ニ犁ヲ執テ後ヲ願ミル者ハ  
 天國ニ當ル克ハザル(路加九章六十二節)ヲ知ル  
 第四十二條 黒衣ヲ着シ長髪ヲ垂レテ市中ヲ徘徊シ世俗  
 ノ男女ト交際シテ己ノ誓約ヲ辱カシムル隱者(野ニ隱遁スル者)  
 ト稱スル者ニ關シ議定スルコト左ノ如シ若シ削髪シテ他  
 ノ修士ノ如キ狀ヲ受ケント欲スル者ハ修道院ニ入レテ  
 兄弟ニ加フ可シ之ヲ欲セザル者ハ全ク市中ヨリ放逐シ



テ自ラ己ノ稱ヲ受ケタル曠野ニ住居セシム可シ

第四十三條 「ハリスチア」ハ假令罪ヲ犯シタル者ト雖  
 且修道ノ業ヲ選ビ俗事ノ繁忙ヲ棄テ、修道院ニ入り修  
 士ノ例ニ由リテ削髮スルヲ許ス蓋シ我等ノ救主、神ハ凡  
 ソ我ニ就クハ我レ決シテ之ヲ棄テズ(約翰六章三十七節)ト云ヘリ  
 且修道ノ業ハ悔改ノ狀ヲ顯ハスニ由リ誠心ニ之ヲ行フ  
 者ハ我等之ヲ嘉ニス故ニ前ニ如何ナル生行アリトモ其  
 志望ヲ遂クルヲ妨ゲザルナリ

第四十四條 修士タル者若シ淫ヲ行ヒ若クハ婚配ヲ爲シ  
 テ妻ヲ娶リ同室セシトニ罪定セラレタル時ハ規則ニ循

ヒ行淫者ノ懲罰ニ服ス可シ

第四十五條 我等或女修院ニ於テ修道ノ聖式ヲ受ケント  
 欲スル者ヲ連レ來ル者ハ之ニ雜色ノ錦衣ヲ着セ班色ノ  
 金銀及ヒ寶石ヲ以テ之ヲ裝飾シ此ノ如クニシテ聖臺ニ  
 近ヅクニ及ビ其美麗ナル衣服ヲ脱シテ直ニ修道ノ式ノ  
 降福ヲ爲シ之ニ黒衣ヲ服セシムル者アリト聞ク故ニ以  
 後決シテ之ヲ行フ可ラザルコト定ム蓋シ自ラ己ニ全ク  
 世俗ノ快樂ヲ棄テ、神ノ爲メニ過活セシコトヲ望ミ堅心  
 之ニ決定シテ修道院ニ入ル者ハ此ノ朽ツ可キ滅ブ可キ  
 ノ虛飾ヲ爲シテ既ニ忘却モシコトヲ追想スルニ宜シキコト



ニ非ズ恐クハ之ニ由リテ心ヲ動カス者アリ動搖轉々ス  
 ル海浪ノ如ク心靈擾乱シテ或ハ流涕ストモ眞實ノ痛心  
 ナ顯ハサバルニ至ル可シ假令若シ當然ニシテ少シク涙  
 ナ垂ル、トモ視ル者ハ之ヲ以テ專ラ修道ノ業ニ熱心ナ  
 ルヨリ出ルルニ非ズシテ世ト世ニ有ル者ニ離ル、チ悲ム  
 ヨリ出ルモノト思惟ス可シ

第四十六條 修道ノ過活ヲ擇ビ修道院ニ定メラレタル婦  
 女ハ決シテ外出ス可ラズ若シ不可避ノ緊要アリテ出ツ  
 可キ時ハ院長ノ降福ト許諾ヲ得テ之ヲ行フ可シト雖モ  
 獨リ自ラ出ツ可ラズ院長ノ命スル所ノ老修女及ヒ修道

院ニ首長タル者ト共ニセザル可ラズ修女ハ修道院外ニ  
 止宿スルコトハ決シテ許サズ又同ク修道ノ過活ヲ爲スノ  
 男モ緊要ノ事有ル時ハ院長タル者ノ降福ヲ得テ出ツ可  
 シ故ニ凡ソ今我等ノ制定セシ所ノ定規ヲ犯スノ男或ハ  
 女ハ相當ノ懲罰ニ服セラル可シ

第四十七條 女ハ男ノ修道院ニ宿シ男ハ女ノ修道院ニ止  
 宿ス可ラズ蓋シ信者ハ凡ソ妨礙誘惑ヲ避ケ端正且ツ殷  
 勤ニ主ニ事フルヲ以テ(哥林多前書七章三十五節)己ノ生行ヲ修メザ  
 ル可ラズ凡ソ之ヲ犯ス者ハ教徒若クハ俗人タルニ拘ハ  
 ラズ親與ヲ絶タル可シ



第四十八條、主教ノ位ニ登崇セラル、者ノ妻ハ預メ互相ノ同意ヲ以テ己ノ夫ト離別シ其夫ノ主教ニ手撫セラレタル後ハ其主教ノ住所ニ遠カリテ建ラレタル修道院ニ入り主教ヨリ資給ヲ受ク可シ若シ其任ニ堪フル時ハ女輔祭ノ位ニ登庸セラル可シ

第四十九條、左ノ聖規則(第四全地公會)ヲモ再興シテ議定ス曾テ主教ノ免許ニ由リテ成聖セラレタル修道院ハ永久ニ修道院ト爲シ之ニ屬スル財産ハ修道院ニ保存シテ以後亦之ヲ俗人ノ住家ト爲サズ且何人タリトモ之ヲ俗人ニ附與スル能ハズ以前或修道院ニ此ノ如キコアリタ

ルモノハ以後決シテ之ヲ保ツ可ラスト議定ス今後敢テ之ヲ行フ者アラバ規則ニ循ヒ懲罰ニ服ス可シ

第五十條、凡ソ俗人及ヒ教徒タル者ハ以後禁戒セラレタル賭博ヲ事トス可ラズ若シ之ヲ行フ者認メラレタル時ハ教徒ハ教衆ヨリ除黜セラレ俗人ハ教會ノ親與ヲ絶タル可シ

第五十一條、此聖全地公會ハ滑稽俳優ト爲リ并ニ其觀場ヲ造リ又ハ獸畜ノ觀場ヲ設ケ及ヒ戲場ニ於テ跳舞スルヲ嚴禁ス若シ此規則ヲ輕シテ右ノ制禁セラレタル遊戯ニ與カル時ハ教徒ハ教衆ヨリ除黜セラレ俗人ハ教會ノ



親與ヲ絶タル可シ

第五十二條 聖四旬齋期中ハ土曜日、日曜日及ヒ福音聖日  
 外ハ預聖聖賜ノ聖體禮儀ニ非ザレバ執行ス可ラズ

第五十三條 靈ノ縁親ハ骨肉ノ縁親ヨリモ一層重キ者ナ  
 リ然ルニ我等或地方ニ於テ救贖ヲ施スノ聖洗ニ由リテ  
 人ノ代父ト爲リタル者後チ其ノ代子ノ寡居セシ母ト婚  
 配ヲ爲ス者アリト聞ク故ニ今後決シテ此ノ如キヲ行  
 フ可ラズト議定ス若シ此規則ノ後ニ之ヲ行フ者認メラ  
 ル、時ハ先ツ其不法ノ結親ヲ絶チ而シテ後行淫者ノ懲  
 罰ニ服セララル可シ

第五十四條

聖書明ニ我等ニ教示シテ曰ク凡ソ爾チ骨肉  
 戚ノ親ニ就キ其裸體ヲ露ス勿レ(利未記十  
 八章六節)ト而シテ捧神  
 ワシリイハ其規則ニ禁制セラレタル或婚配ハ記セシト  
 雖モ過半ハ黙シ之ヲ以テ我等ノ益ヲ爲セリ蓋シ醜惡ナ  
 ル名稱ヲ以テ言ヲ瀆サンコトヲ恐レテ多ク之ヲ用ヒズ一  
 般ニ不淨ノ名稱ヲ附シテ我等ニ不法ナル婚配ヲ示セリ  
 然レモ此ノ如ク不法ノ婚配ヲ黙シテ不分明ノ禁アルヲ  
 以テ自ラ血屬ヲ混セシニ由リ我等判然之ヲ舉示スルヲ  
 緊要ノコト認メ議定スルト左ノ如ク自今若シ己ノ兄弟  
 ノ娘ト結婚シ若クハ父及ヒ子ハ母及ヒ娘ト若クハ父及



七子ハ二人ノ姉妹ト若シハ母及ヒ娘ハ二人ノ兄弟ト若  
 シハ二人ノ兄弟ハ二人ノ姉妹ト結婚スル時ハ明ニ其不  
 法ノ結親ヲ絶タル後七年間懲罰ノ規則ニ服セラル可  
 シ  
 第五十五條 我等ロマ府ニ住スル者ハ教會ノ舊慣ニ反シ  
 テ聖四旬齋期ニ於テ土曜日ニ禁食スル者アリ下聞ク故  
 ニ聖公會ハロマ教會ニ於テモ違反セズシテ左ノ規則ヲ  
 遵守スルヲ適當ト爲ス若シ教衆ノ者主ノ聖日若シハ一  
 土曜日ヲ除クノ外土曜日ニ禁食シテ認メラル、時ハ除  
 黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ(使徒規則六十四條)

第五十六條 我等アルメニヤ地方及ヒ其他諸所ニ於テ聖  
 四旬齋期中ノ土曜日及ヒ日曜日ニ乾酪鶏卵等ヲ食スル  
 者アリト聞ク依テ全地ニ於テ神ノ教會ハ同一ノ規順ヲ  
 遵守シテ禁食ヲ爲シ凡ソノ屠肉ヲ禁制シ并ニ其禁スル  
 所ノ者ヨリ生スル鶏卵、乾酪等ヲ制禁スルヲ適當ト認ム  
 若シ之ヲ遵守シザル時ハ教徒ハ除黜セラル可シ俗人ハ  
 親與ヲ絶タル可シ  
 第五十七條 聖臺ニ蜂蜜及ヒ乳汁ヲ献ス可ラズ  
 第五十八條 凡ソ俗人ノ列ニ在ル者ハ主教或ハ司祭或ハ  
 輔祭ノ有ル時自ラ神ノ機密ヲ領ス可ラズ敢テ此ノ如キ



コヲ行フ者アラバ定規ニ反シテ行フ者トシテ一週間教會ノ親與ヲ絶テ以テ自テ高想シテ當サニ想フヘキ所ニ過シ可ラザル(羅馬十二)ナ知ラシム可シ  
(章三節)

第五十九條 人家ニ在ルノ祈禱室ニ於テ洗禮ヲ施ス可ラズ至淨ノ照明(洗禮)ナ得ント欲スル者ハ宜シ公教會ノ聖堂ニ來リテ此恩賜ヲ受ク可シ若シ我等ノ制定セシ所ノ者ヲ遵守セズシテ罪セラレタル時ハ教徒ハ除黜セラレ可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

此公會ノ規則第三十一條ヲ以テ主教ニ不得已日疑フ可ラザルノ場合ニ於テハ此規則ノ嚴ナルヲ寬ニスル

ノ權ヲ與ヘラレタリ

第六十條 使徒ハ主ニ合スル者ハ主ト一體ト爲ル(哥林多前書六

章十)ト云ヘリ故ニ其敵ニ與ニスル者ハ亦交親ニ由テ之

ト一體ト爲ルト明カナリ是故ニ裁定セシト左ノ如シ詐リテ患鬼者ノ爲ナシ品行ヲ乱シテ患鬼者ノ行爲ヲ擬スル者アラバ百方之ヲ罰シ眞成ノ患鬼者ヲ魔鬼ノ行爲ヨリ脱スルガ爲メ當然ニシテ服スル所ノ嚴刻勞苦ニ服ス可シ

第六十一條 妖術者及ヒ百人ノ長ト稱スル者(妖術者ノ首

長)若クハ其他之ニ類スル者ニ就テ其占フコトヲ聞カント



欲スル者アラハ前ニ諸父ノ制定シタルモノニ應シテ六  
 年間懲罰ノ規則ニ服ス可シ又左ノ事ヲ爲ス者モ此懲罰  
 ニ服ス可シ即チ熊若クハ其他ノ獸類ヲ愚民ノ戯笑ニ供  
 シテ其害ヲ爲シ欺詐ト無智トヲ以テ幸福ノヲ運命ノヲ  
 族系ノヲ占言シ及ヒ其他之ニ類スル種々ノ妄説ヲ述  
 ブル者并ニ所謂占雲者蠱惑者預防ノ護符ヲ作ル者及ヒ  
 妖術者等是レナリ此等ノ事ヲ固執シテ歸正セズ此ノ如  
 キ有害ナル異教ノ妄説ヲ擯斥セザル者ハ聖規則ノ命ス  
 ル如ク全ク教會ヨリ逐斥ス可キト定ム蓋シ使徒云フ  
 如ク光ト暗ト何ノ交カ之レ有ン神ノ殿ト偶像ト何ノ同

カ之レ有ン信者ト不信者ト何ノ干カ之レ有ンハリスト  
 ストワエリアルト何ノ契カ之レ有ン（哥林多後書六章  
 十四、十五、十六節）

第六十二條 「カレンド」ヲ「マ」ナルマリアト稱スル者及ヒ三

月一日ニ民ノ集會スルノ例ハ信者ノ生行上ヨリ全ク除  
 去スルヲ望ム又同ク大害ヲ生ス可キ婦人ノ公ケナル跳  
 舞并ニ「ハリステアニン」ノ行爲ニ反スル古例ニ由テエル  
 リン人ノ稱シテ神ト爲ス所ノ僞神ヲ祭ルガ爲メニ行フ  
 所ノ男女ノ舞戲及ヒ諸儀式ヲ擯斥シテ議定スルト左ノ  
 如シ凡ソ男ハ女服ヲ着若クハ女ハ男ノ服ス可キ衣類ヲ  
 服ス可ラズ滑稽、笑戲、悲戲等ノ假面ヲ用ユ可ラズ酒措ニ



葡萄酒ヲ壓搾スル時「ディオニス」ノ醜名ヲ言フ可ラズ酒樽ニ  
 酒ヲ注入スル時戯笑ス可ラズ并ニ凡ソ無智放心ニシテ  
 悪魔ノ誘惑ニ属スル事ヲ行フ可ラズ故ニ以後若シ之ヲ  
 知リテ敢テ前ニ云フ所ノ事ヲ行フ者アラハ教徒ハ其聖  
 位ヲ黜ケ俗人ハ教會ノ親與ヲ絶ツ可キヲ命ズ  
 ※「カレンド」ト云フヲ以テ毎月ノ初日ニ異教ノ風ヨリ生  
 シタル儀式遊戯等ヲ以テ祭ヲ爲スヲ禁ス「ワタ」ト云フ  
 ヲ以テ「パン」(神ノ名)ヲ祭ル異教ノ遺風ヲ行フヲ禁ス「ウ  
ルマリア」ト云フヲ以テ「ディオニス」若クハ「ワクフ」又一名  
ウロミイト稱スル異教ノ神ヲ祭ル遺風ヲ行フヲ禁ス

ルナリ

第六十三條 眞理ノ敵人ガ「ハリス」トスノ致命者ヲ譏謗シ  
 之ヲ聞ク者ヲ誘惑シテ不信者ト爲サント欲シテ偽作セ  
 シ致命者ノ傳記ハ聖堂ニ於テ公告セズシテ火ニ投ス可  
 キヲ命ズ此書ヲ受クル者若クハ之ヲ以テ眞實ノモノ、  
 如クニ思惟スル者ハ「アナフエマ」ニ附ス  
 第六十四條 俗人ハ公衆ニ向テ發言シ若クハ教誨シ以テ  
 自ラ師タルノ尊ヲ擔任ス可ラズ宜ク主ニ授ケラレタル  
 順序ニ從ヒ道ヲ教ラルノ恩寵ヲ受ケタル者ニ耳ヲ傾ケ  
 之ニ就テ神ノ「イ」ヲ學ブ可シ蓋シ使徒ノ言(哥林多前書十  
 二章二十七節)



ニ由ルニ神ハ惟一ノ教會ニ諸肢ヲ成セリ神學者グリゴ  
 リイ此言ヲ解釋ステ明ニ其順序ヲ示ス曰ク兄弟ヤ此順  
 序ヲ尊ビ此順序ヲ守リ或者ハ耳ト爲リ或者ハ舌ト爲リ  
 又或者ハ手ト爲リ或者ハ他ノ肢ト爲リ或者ハ教誨シ或  
 者ハ教誨ヲ受ク可シト其後又曰ク教誨ヲ受クル者ハ宜  
 シ聽從スベシ施濟スル者ハ宜ク喜ンテ施濟スベシ勤役  
 スル者ハ宜ク熱心ニシ務ムベシ假令最モ己ノ性ニ適ス  
 トモ衆皆ナ舌ト爲ル可ラズ或ハ皆ナ使徒ト爲リ或ハ皆  
 ナ預言者ト爲リ或ハ皆ナ講師ト爲ル可ラズト其後又曰  
 ク羊タル者何爲ツ自ラ牧者ト爲ルヤ足タル者何爲ツ首

ト爲ルヤ卒伍ニ列スル者何爲ツ軍ニ將タラント欲スル  
 ヤト又他ノ書ニ睿智者命シテ曰ク爾チ粹言スル勿レ傳道  
 一書五章自ラ貧ニシテ富有チ圖ル勿レ箴言二十ト賢人ニ  
 優ルチ求ル勿レ若シ此規則ヲ犯ス者認メラル、時ハ四  
 十日間教會ノ親與チ絶タル可シ  
 第六十五條 月朔ニ市店若クハ人家ノ前ニ篝火ヲ焚キ古  
 時ノ風習ニ循ヒ狂愚ニシテ之ヲ跳過スルコトハ以後廢止  
 ス可キヲ命ズ故ニ若シ此ノ如キ事ヲ行フノ教徒アレハ  
 除黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ蓋シ列王記第  
 四卷ニ曰クマナシヤ天ノ衆軍ノ爲ニ主ノ室ノ二院中ニ



壇ヲ建テ又其子ヲシテ火中ヲ通ラシメト筮術數ヲ用ヒ  
憑鬼者及ヒ巫覡ヨリテ主ノ前ニ多ク惡ヲ行ヒ以テ其  
怒ヲ激ス(列王記四卷二  
十一章五六節)

第六十六條 ハリフトス我等ノ神ノ聖復活日ヨリ次日  
曜日ニ至ルマデ全一週間ハ信者ハ聖堂ニ在テ恒ニ詩章  
歌頌靈賦ヲ唱ヒ聖書ヲ誦讀スルヲ聞キ聖機密ヲ領シハ  
リストスニ於テ欣喜祝賀ス可シ蓋シ此ノ如クハリフト  
スト共ニ復活シテ昇天セン故ニ此日ニハ決シテ競馬ヲ  
爲シ其他民衆ノ觀場等ヲ設ク可ラズ

第六十七條 聖書ニ血及ヒ勒死ノ牲并ニ姦淫ヲ禁ス可キ

ヲ戒メタリ(行實十五章  
二十九節)故ニ凡ソ食慾ノ爲メニ巧ニ獸類  
ノ血ヲ製シテ食物ト爲シ之ヲ食スル者ハ我等審議シテ  
懲罰ニ服スルヲ可トセリ故ニ以後若シ獸類ノ血ヲ食ス  
ル者ハ其如何ナル方法ヲ以テスルヲ論ゼズ教徒ハ除黜  
セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

第六十八條 舊新約書并ニ聖ニシテ公認セラレタル我等  
ノ傳道者及ヒ教師等ノ書ヲ傷害截割シ又ハ書買若シハ  
所謂香油ヲ煮ル者及ヒ其他人々ニ附與シテ滅却スルヲ  
許サズ但シ益若クハ水及ヒ其他ノ事ニ由リ損傷シテ用  
ニ可ラザル者ハ此限ニ非ズ若シ今後此ノ如キヲ行フ者



認メラル、時ハ一年間親與ヲ絶タル可シ又同ク此ノ如キ書ヲ購求シ之ヲ有シテ己ノ益ヲ爲サズ又ハ慈愛ヲ以テ他人ニ貸附シテ之ヲ保護セシメズ徒ラコ之ヲ損傷スル者ハ親與ヲ絶タル可シ

第六十九條 凡ソ俗人ノ列ニ在ル者ハ聖臺ノ内ニ入ルヲ許サズ唯或古例ニ由リテ帝王ノ權威特典ヲ有スル者造物主ニ献物ヲ爲サント欲スル時ハ決シテ之ヲ妨ケラレズ

第七十條 聖體禮儀ノ時女人ニ言フヲ許サズ使徒パウエルノ言ニ從テ宜ク緘黙スベシ蓋シ律法ニモ言フガ如ク彼

等ニ言ハズシテ承順スルヲ命ズ若シ學バント欲スル所アラハ室ニ在テ其夫ニ問フ可シ(哥林多前書十四章三十四、三十五節)

第七十一條 國法ヲ學ブ者ハエリリ風習ニ從テ或ハ伴ハレテ觀場ニ至リ或ハキリストラ稱スル事ヲ行ヒ又ハ學業ヲ始メ或ハ卒業スル時或ハ凡テ學業ヲ脩ムルノ間世俗ニ用サザル衣服ヲ着ス可ラズ若シ以後敢テ之ヲ行フ者アラハ親與ヲ絶タル可シ

※  
ワリサモンノ説ニ依ルニキリストラハ岡ノ類ニシテ教師ハ之ヲ以テ己ノ門弟ヲ配分シタルモノナリ  
第七十二條 正教ノ男ハ異端ノ女ト婚配ヲ爲シ或ハ正教



ノ女ハ異端ノ男ト配偶ス可ラズ凡ソ此ノ如キ事ヲ爲ス者アルヲ認ムル時ハ其婚配ヲ無効ノ者ト爲シ其不法ノ同居ヲ離斷セシム可シ蓋シ混同ス可ラザルモノヲ混同シ羊ト狼ヲ配シハトストスニ屬スルノ分ト罪人ニ屬スルノ分ヲ配合ス可ラズ若シ我等ノ制規ヲ犯ス者アラバ親與ヲ絶タル可シ然レモ若シ或ハ不信者ニシテ未タ正教ノ群ニ加ハラザル時合法ノ婚配ヲ以テ配偶セシ者後チ其一人善事ヲ擇ビテ真理ノ光ニ歸シ而シテ一人ハ未タ迷罔ノ鏈ニ繫ガレテ神ノ光射チ看ルヲ欲セズト雖モ其不信ノ妻ハ信者タル夫ト同居スルヲ願ヒ或ハ不信ノ夫

ハ信者タル妻ト同居スルヲ欲スレバ聖使徒ノ言ニ從テ離別ス可ラズ蓋シ不信ノ夫ハ婦ニ由テ潔フセラレ不信ノ婦ハ夫ニ由テ潔フセラレナリ(哥林多前書七章十四節)

第七十三條 生活ヲ施スノ十字架ハ我等ニ救贖ヲ顯ハセシニ由リ我等極メテ謹慎ヲ用非我等ヲ古時ノ犯罪ヨリ救ヒシモノトシテ之ヲ敬セザル可ラズ故ニ我等意ト言ハ情トヲ以テ之ヲ敬拜シテ命スルヲ左ノ如シ地上ニ畫キタル十字架ノ形象ハ全ク塗抹シ行人ヲシテ我等ノ勝利ノ徽章ヲ蹂躪凌辱セシム可ラズ故ニ以後地上ニ十字架ノ形象ヲ畫ク者アラバ親與ヲ絶ツ可キヲ命ズ



第七十四條 主ニ献シタル場所即チ聖堂ニ於テ友愛ノ筵  
ト稱スルモノヲ行ヒ堂内ニ於テ喫食シ及ヒ臥褥ヲ布ク  
可ラズ敢テ之ヲ行フ者ハ或ハ禁止ス可シ或ハ親與ヲ絶  
タル可シ

第七十五條 聖堂ニ來リテ唱歌スル者ハ無禮ノ喧聲ヲ爲  
シ強テ出ス能ハザルノ高聲ヲ發シ及ヒ其他聖堂ニ相應  
適當セザルコトヲ爲ス可ラザルヲ望ム最モ注意謹慎ニシ  
テ隱微ヲ視ルノ神ニ頌歌ヲ献ス可シ蓋シ聖言ハイズラ  
イリノ嗣ニ教フルニ恭敬ナル可キヲ以テセリ(利未記十  
五章三十節)

第七十六條 何人タリトモ聖堂ノ園内ニ酒店ヲ設ケ或ハ  
種々ノ食物ヲ陳列シ或ハ其他ノ商業ヲ爲ス可ラズ宜ク  
聖堂ヲ敬重スベシ蓋シ我等ノ救主、神ハ人體ヲ藉リテ世  
ニ在リ我等ヲ教誨スル時己ノ父ノ室ヲ以テ貿易ノ室ト  
爲ス可ラザルヲ命ジテ免錢者ノ金ヲ傾ケ聖殿ヲ以テ俗  
場ト爲セシ者ヲ逐出セリ(約翰二章十  
五、十六節)故ニ若シ此事ヲ犯  
シテ罪セラレタル者ハ親與ヲ絶タル可シ

第七十七條 聖役者或ハ供職者或ハ修士并ニ凡ソ「ハリス  
テアニシ」タル俗人ハ浴場ニ於テ婦人ト共ニ沐浴ス可ラ  
ズ蓋シ此事ハ異教人ノ最モ我等ヲ誹謗スルコトナリ若シ



此事ヲ爲シテ罪セラレタルノ教徒ハ除黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

第七十八條 領洗スルニ準備スル者ハ宜ク教理ヲ學ビ各週間ノ五日目ニ主教或ハ司祭ニ應答ヲ爲サバ爾可ラズ第七十九條 神ガ處女ヨリ誕生セシトハ無種ニシテ生レタルトナルニ由リ産苦無キ者ト信認シ普ク收衆ニ之ヲ宣傳シテ無知ニ由リテ不相當ノ事ヲ行フトテ矯正ス蓋シハリストス我等ノ神ノ降誕聖日ノ後燒キタル麵包ヲ以テ互ニ相贈リ至ク疵ナキ處女ナル母ノ産苦ヲ敬セントスル者アルニ由リ我等、信者タル者ハ凡テ此ノ如キ事

ヲ行フ可ラザルトト議定ス蓋シ我等ニ相應スル通常分娩ノ例ヲ以テ處女ノ言フ可ラザルノ産ヲ臆測想像スルハ容ル可ラザルノ神言ヲ人智言語ニ超ヘ肉體ニ由リテ生ミタル處女ノ榮ニ非ザルナリ故ニ若シ以後此ノ如キ事ヲ行フ者認メラル、時ハ教徒ハ除黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ

第八十條 若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭或ハ凡テ教衆ニ屬スル者并ニ俗人ハ緊要ノ事故アルニ非ズ若クハ久シク己ノ教會ヨリ拒絶セラレタル故障アルニモ非ズ府内ニ在リテ三週間ノ三日曜日共ニ聖堂ニ來ラザレハ教徒ハ



教衆ヨリ除黜セラル可シ俗人ハ親與ヲ絶タル可シ  
 第八十一條 我等ハ或地方ニ於テ聖三者ノ歌ヲ増補スル  
 ノ意ヲ以テ聖常生ナル者ト云フノ後ニ我等ノ爲ニ釘セ  
 ラレタル者我等ヲ憐メヨト唱フルト聞ク然レハ此言ハ  
 古時ノ諸聖父ガ虔敬ニ背クモノトシテコノ歌ヨリ新ニ  
 此言ヲ附加シタル不法ノ異端者ト共ニ擯斥セシ所ノモ  
 ノナリ故ニ我等モ會テ諸聖父ガ虔敬ニ制定シタル事ヲ  
 認定シテ此制定ノ後教會ニ於テ此ノ如キノ言ヲ採用シ  
 若クハ其他凡ソ聖三者ノ歌ニ附加スル者アレバ「アナフェ  
 マ」ニ附ス若シ此制規ヲ破ル者神品ノ者ナレバ其神品ノ

位ヲ褫奪シ俗人或ハ修士ナレバ教會ノ親與ヲ絶ツ可キ  
 チ命ズ

第八十二條 或聖像ニ先驅ガ羔ヲ指示スルヲ畫キタルモ  
 ノアリ蓋シ此羔ハ恩寵ヲ象ドリ律法ニ由テ我等ニ眞ノ  
 羔即チハリストス我等ノ神ヲ示セルモノナリ我等ハ教  
 會ニ傳來セル古時ノ象影ヲ眞理ノ兆候預象トシテ尊崇  
 スト雖ハ恩寵ト眞理トハ律法ノ應スル所ノ者ト承認シ  
 テ殊ニ之ヲ尊崇ス依テ畫法ヲ以テ衆人ノ目ニ完全ナル  
 事ヲ示カンガ爲メ以後聖像ニ世ノ罪ヲ負フノ羔即チハ  
 リストス我等ノ神ノ像ヲ畫ク時ハ舊羔ノ代リニ人体ニ



由テ之ヲ盡シ可キヲ命ズ蓋シ之ヲ以テ神言ノ遜卑ヲ想  
思シ彼レノ人体ヲ藉リタル時ノ生行、其苦難及ヒ其人ヲ  
救贖スルガ爲メニ死セシト並ニ此ノ如クニシテ世ノ救  
贖ヲ成セシト追思ス可シ

第八十三條 何人タリトモ死者ノ體ニ聖體ヲ授ク可ラズ  
蓋シ聖書ニ曰ク取テ食（馬太二十六章）ト然ルニ死者ノ體  
ハ取ル能ハズ又食フ能ハザルナリ

第八十四條 諸父ノ定規ニ準據シテ小兒ノトチモ議定ス  
ルト左ノ如シ凡ソ判然其領洗セシトチ證スル確實ナル  
證人ヲ得ザル時又ハ幼齡ニ由リテ自ラ其授ケラレタル

機密ノトノ應答ヲ爲ス能ハザル時ハ決シテ疑念スルト  
ナク之ニ洗禮ヲ施サザル可ラズ恐クハ此ノ如キ疑念ニ  
由リ彼等ハ聖機密ヲ以テ清メラル、トチ失ハシ

第八十五條 我等聖書ニ二三ノ証者ニ由テ言々徵有ル可  
シ（復傳律例書十）ト云フチ知ル故ニ議定スルト左ノ如シ  
主人ヨリ釋放セラレテ自由ニセラル、ノ奴隸ハ三人ノ  
証者ノ前ニ於テ此特權ヲ得可シ但シ此証者ハ其場ニ現  
在スルヲ以テ自由ニセラレタルトチ法ニ合フモノト爲  
シ其ノ行ヒタル事ヲ確實ニス可キナリ

第八十六條 淫婦ヲ集メテ之ヲ給養シ以テ人心ヲ害スル